

7月臨時教育委員会会議録

- 1 日程 令和6年7月30日（火）
- 2 場所 藤井寺市役所 3階 会議室305
- 3 案件
日程第1 会議録署名委員の指定について
日程第2 議案第16号 令和7年度使用教科用図書の採択について
・・・資料1（学校教育課）
- 4 出席委員
教育長 見浪 陽一
教育委員（教育長職務代理者） 足立 義幸
教育委員 富山 昌克
教育委員 原 明子
教育委員 永井 由美子
- 5 教育部出席者
教育部長兼次長（教科用図書選定委員長） 大山 哲也
教育監（教科用図書選定副委員長） 寺田 剛
学校教育課長 岸 廣幸
学校教育課参事 田中 守
学校教育課長代理 山川 直人
- 6 欠席 教育総務課長 中村 真也
- 7 書記 教育総務課主幹 田名出 隆行
- 8 傍聴者 18人

午前10時00分 委員会開会を宣して日程に入る。

○田名出教育総務課主幹

みなさま、おはようございます。令和6年7月の臨時教育委員会会議の開会に先立ちまして、事務局より、本日の傍聴者の報告をさせていただきます。

藤井寺市教育委員会傍聴人規則に基づき、傍聴者を募集したところ、18名の希望者がおられましたので、手続きの上、入室していただいております。

傍聴の方々にお伝えいたしますが、本日お配りしております資料につきましては、お持ち帰りいただいても結構です。また、長時間となりますので、出入りは自由とさせていただきます。

また、藤井寺市傍聴人規則第5条により、会議が始まりましたら撮影、録音は禁止となっておりますので、ご理解いただけますようお願いいたします。

本日の会議録は、8月下旬開催予定の次回定例教育委員会会議の中で承認されてからの公開となります。

なお、教育長及び教育委員の過半数が出席しておりますので、地方教育行政の組

組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、本日の会議が成立することを報告いたします。

それでは、教育長お願いいたします。

○見浪教育長

ただいまから、臨時教育委員会を開会いたします。

本日の臨時教育委員会の案件は、「令和7年度使用中学校教科用図書の採択」及び「令和7年度使用小学校教科用図書の採択」となっております。

まず、日程第1 会議録署名委員の指定について、本日の会議録の署名は原委員にお願いいたします。

次に、日程第2 議案第16号 令和7年度使用教科用図書の採択について、まずは「令和7年度使用中学校教科用図書の採択」を行います。委員の方には、選定委員会の答申を踏まえながら、学習指導要領の趣旨を踏まえ、本市の実態も考慮した、最適な教科書を採択するために、幅広い審議をお願いしたいと思います。

去る7月17日に、藤井寺市立学校教科用図書選定委員会の答申を受けました。答申では、藤井寺市によりふさわしいと考えられる教科用図書の推薦もしていただいております。

本日は、その答申内容も参考にしながら審議し、採択を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。挙手をお願いします。

○委員一同

「全員挙手」

○見浪教育長

異議なしということですので、まず、国語の教科用図書採択を行います。選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

国語4社のうち、推薦図書2社についての特色等を説明させていただきます。

まず、三省堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、単元構成については、「学びの道しるべ」で生徒が学習内容を整理し、読み深め、自分の考えを深め、学びのふり返りができるよう、学習の過程を示されています。

次に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、単元構成については、「学びへの扉」で「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「ふり返る」と、生徒が学習内容を整理し、読み深め、自分の考えを深め、学びのふり返りができるよう、学習の過程を示しています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中

で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「三省堂」「光村図書」の2社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」について、ご意見ををお願いします。

○原委員

「組織・配列」の観点で見ますと、表紙、挿絵、構成など、全体的に見やすいと感じたのが三省堂の教科書でした。單元ごとの表紙の挿絵がきれいであり、表紙においても陸と海を融合したデザインになっており、国語イコール子どもたちの想像力を引き出すというイメージがあり、良いと感じました。

また、よく知られている芸人やバンドのアーティストの本を読むことから得られた体験談を載せたり、「歌の言葉」として中学生がよく知っているアーティストの歌詞を載せたりと、子どもたちの興味関心を引き出しやすくする工夫がされていると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」の観点で各出版社を見ますと、三省堂では、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が組織・配列されています。1年の48ページ「クジラの飲み水」は理科の学習に、1年の98ページ「1000円の価値を考える」は社会や家庭の学習に、2年の48ページ「人間は他の星に住むことができるのか」は理科の学習に、2年の148ページ「100年後の水を守る」は社会・理科・SDGsの学習に、2年の190ページ「動物園でできること」は理科・SDGsの学習に関連付けられているところがいいと思いました。

○見浪教育長

「組織・配列」に関して、見やすさや他教科との関係についてのご意見をいただきました。

特に1年生は生徒が抵抗感なく、教科書に入っていけることが重要だと思っています。その観点で言いますと、全体の見やすさと合わせて、取り上げられている題材も大事なかなと思っており、例えば、1年生の教科書で、東京書籍の「私たちの未来」や光村図書の「はじまりの風」は、中学校生活の始まりを予感させる題材であると思いました。また、三省堂の「朝のリレー」は、これから新しいことが始まる予感をさせるものと感じました。

それでは、「人権の取扱い」「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見ををお願いします。

○足立委員

「学び方の工夫」の観点で各出版社を見ますと、各社とも、深い学びが実現できるよう工夫がなされています。

なかでも光村図書は單元末に「学びへの扉」「学びのカギ」というページを設けて

おり、学習過程を図解で「見える化」しています。また「国語の力試し」があり、自身の学習習得度の確認ができるコンピューターを使用した試験であり、総じて二次元コードをうまく活用していると思います。また、「学び方の工夫」の観点からは少し逸れますが、光村図書の表紙の紙は傷が目立ちにくくて良いと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「学び方の工夫」の観点で見ますと、教科書の最初の部分に教材ごとに話す、聞く、書くなどの領域別による分類が明記されているので、目標を持って学びやすいと思われます。さらに「思考の方法」のページでは、物事の考え方を身につけることができるので、国語以外の教科にも応用ができて良いと思います。

特に三省堂は、この「思考の一覧」はわかりやすく解説しており、優れていると思っています。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点から言いますと、三省堂、光村図書、東京書籍は巻末に「デジタルコンテンツ一覧」があり、取り扱い面も含め、充実してきている印象を受けます。

ボリューム感は異なりますが、各社とも巻末に「資料」、教育出版は「言葉の自習室」というタイトルでまとめてあり、補足情報が分かりやすく整理されています。光村図書には別冊的に「語彙ブック」があり、目的に応じて取り組みしやすくなっている点を評価しています。

各社のホームページを拝見し、制作コンセプトを知ることができましたが、特に光村図書のホームページは読み物的な内容も多く、「クロニクル」と称した今までの教科書を見ることができ、教科書制作への真摯な取組姿勢を感じることができましたし、保護者も楽しめる内容かなと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

同じく「補充的な学習・発展的な学習」の観点で、光村図書の1年の42ページ「ダイコンは大きな根？」は、園芸農業を専門とする私から見ても秀逸だと感じました。

2年の84ページ「翻訳作品を読み比べよう」では、有名な『星の王子さま』を用いて、翻訳者による文章を比較させています。これは翻訳家へ憧れと夢を抱くことにつながるのではないかと感じました。

3年の78ページ「報道文を比較して読もう」の、記者の視点によって報道内容

や考え方が異なることを学ぶのに適した内容だと思います。これは報道関係の記者へのあこがれを抱かせることにつながる、優れた内容だと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点で、述べさせていただきます。藤井寺市の教育方針12に「生涯を通じて読書に親しめる市立図書館づくり」を掲げていますが、令和5年度に実施した全国学力・学習状況調査の実態によると、中学校での読書習慣の割合では、藤井寺市内の中学校は全国平均に比べて、全く読書をしていない生徒の割合が残念ながらかなり高い結果となっています。このような背景から、生徒に読書習慣を身につけるためにも、書籍の紹介は必要不可欠な要因であると考えておりまして、光村図書の「本の世界を広げよう」や三省堂の「小さな図書館」といった特集は、良い試みであると考えます。

○見浪教育長

他に意見はないでしょうか。

○原委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、三省堂、光村図書ともに、作品の最後に「私の本棚」や「広がる読書」といったように、作品と関連付けられた、または参考となる本の紹介をしているところが、学びを深めやすくなっているのが良いと感じました。また、作品の筆者についても写真を載せており、こういった人物がこの作品を作ったのかがわかりやすくなっていると思います。

また、参考資料として、光村図書の「本の世界を広げよう」や、三省堂の「小さな図書館」といったコーナーがあり、読書の幅を広げる参考に役立てることができ、良いと思います。

○見浪教育長

他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、他の委員と同じく、各社とも言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するように工夫されており、また、学校図書館や情報機器を活用することについて適切に取り上げられていると感じました。

例えば、全出版社の1年のテキストを比較してみますと、東京書籍では計86冊、三省堂では計80冊、教育出版では計96冊、光村図書では計118冊の本が紹介されています。数が多ければいいという問題ではありませんが、どこに子どもたちが興味を示すのかわからないので、紹介している本の冊数を単純に比較することも一つの基準になるのではと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございます。ご意見の中には、選定委員会からの報告にもありましたが、学習の流れが示されており、生徒が見通しを立てながら学習を進めることができる点が良いというご意見や、「思考の方法」が示されている点が良いといった意見がありました。

また、多くの本を紹介し、生徒が読んでみたいなと思ってもらえるような工夫がされている点が良い等の意見をいただきました。

観点3「人権の取扱い」については意見が出ておりませんでした。例えば、東京書籍では1年で「平和へのバトン」、3年で「未来の扉」、教育出版の1年の「ベンチ」では、平和についての教材が採用されており、また、三省堂では3年生の教科書で「海を越えた故郷の味」で国際社会や国際理解について考える題材となっているなど感じました。

あと、学習の見通しを立てやすいという点で申し上げますと、各委員から出た意見以外にも、東京書籍さんでは「手引き」、三省堂さんは「学びの道しるべ」、教育出版では「道しるべ」があるのかなと思っております。

ともに題材を読み、自分の考えを深めて学びを振り返るという構成になっているかなと思っております。また、三省堂の「グループディスカッション」や「レポート」というところは、ディスカッションの方法とかレポートのまとめ方などを丁寧に記載されていて、私はわかりやすいかなと思いました。

それでは、意見も出尽くしたかと思えます。

国語はすべての教科の基礎となるものであり、読解力や表現力を醸成していくために重要な教科です。生徒にとって、最も良い教科書を選定できればと思います。他に意見はないでしょうか。他に意見がないようでしたら、採決を取ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍0人、三省堂3人、教育出版0人、光村図書2人

○見浪教育長

三省堂に3名挙手されていますので、採決の結果、国語は、三省堂を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、三省堂を採択いたします。

続いて、書写の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

書写4社のうち、推薦図書2社についての特色等を説明させていただきます。

まず、教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、日常生活や学習活動に

おける生きてはたらく書写力が育成できるように、硬筆と毛筆を関連させ、毛筆学習の成果が確実に硬筆学習につながるように教材構成をしています。

次に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「内容の程度」「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、「学びのカギ」を設け、他の文字を書くときにも普遍的に活用できるよう工夫されています。さらに、別冊の硬筆練習帳「書写ブック」を設け、毛筆教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を豊富に設定することで、硬毛の密接な関連を図りながら、毛筆での学習が硬筆に生きるように工夫されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「教育出版」と「光村図書」の2社でした。なお、選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、委員の皆さま、審議をお願いしたいのですが、整理のため、観点のうち、まず「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」「学び方の工夫」について、ご意見をお願いします。

○永井委員

「内容の程度」の観点で見ますと、書写の教科書は各出版社ともに、観点項目である「文字を効果的に書くこと」や「日常生活や学習活動」に役立つ活動が充実していると感じます。書く文字も楷書から行書、さらに行書と仮名の調和などを学べますが、これによりさまざまな表現方法を習得できると思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」の観点で見ますと、光村図書は各学年の目標を踏まえて、系統的に単元が配列されています。毛筆の教材では2ページを使った大きなお手本が複数あり、ポイントも配置されていると感じます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」の観点で見ますと、光村図書、教育出版では、姿勢と用具の使い方から準備・片付け、学習の進め方と、書写の基本となるところを写真や生徒見本を用いて丁寧に説明しています。生徒見本においては、男女のモデルを用いており、SDGs×書写というように、環境にも配慮した例も記載してあるところが評価できます。

○見浪教育長

ありがとうございました。「内容の程度」「組織・配列」「学び方の工夫」の分野についてご意見いただきました。他に意見はないでしょうか。

意見としては、書写の基本となるところを丁寧に説明している点や生徒のモデルとして男女用いている点、SDGs に配慮している点を挙げていただきました。

また、手本が見開きを使って大きく記載されており、細部まで見やすいという意見もありました。

書写の準備の点では、「人権の取扱い」の観点にもかかわるのですが、左手で筆を持つ場合の説明について、教育出版と光村図書は「左手用の QR コード」として記載しており、親切で丁寧だと感じました。

また、「学びの工夫」という観点では、各社ともに、各単元で目標を定めて、教科書で示された「書き方のポイント」を踏まえて実践を行い、ふりかえるという構成になっており、生徒は見通しを立てながら学習できるよう工夫されていると感じました。

それでは、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点で各出版社を見ますと、光村図書には「書写ブック」という別冊が用意されています。別冊扱いとすることで、教科書と並行しての利用や他教科での利用といった多目的かつ補充的に使用することができるのではないのかなと感じられ、その点でメリットがあると感じます。

また、実際に手を動かし体で覚えていくコンテンツが充実していることは、整った文字を書くことを身につける意味で重視すべき点だと考えます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

同じく「補充的な学習・発展的な学習」の観点で、光村図書では「別冊書写ブック」があり、大変工夫されていると思います。巻末に日常に役立つ書式があることにも注目です。中学生のための漢字字典があり、常用漢字表、人名用漢字表もあり、とても役立つ資料といえると思います。あと、90 ページに「全国文字マップ」といって、実際に使われているフォントを探しに行こうと提案されているのも面白いなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

同じく「補充的な学習・発展的な学習」の観点で、光村図書では、巻頭に「別冊書写ブック」があり、硬筆の学習、行書体の練習に取り組みやすく工夫されていると感じます。

また、日常に役立つ書式という単元で、手紙やはがきの書き方がわかりやすく説

明されています。光村図書、教育出版ともに例をたくさん挙げて掲載されていますが、光村図書の方が文字のバランスの注意点等わかりやすく記載されていると感じます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点で、述べさせていただきます。日常生活においてパソコンやスマホの台頭により、手書きで文字を書く機会は残念ながら減ってきていると思います。しかしながら、一方では、手書きによる手紙や願書などまだまだ必要な時もあります。教科書の最後に「日常に役立つ書式」や、これまでの学習の成果を生かすために「手紙の書き方」などが掲載されており、字を書く大切さも同時に学ぶことができるのがよいと思います。その点では光村図書や教育出版の内容は、充実していると感じます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

再び「補充的な学習・発展的な学習」の観点から、各社ともに二次元コードを通して、動画や資料などの役立つ情報をウェブ上で掲載しています。光村図書では、「行書スイッチを入れよう」というコンテンツがあり、行書と楷書の違いについて動画でも解説しており、わかりやすさに努めているなと捉えました。ウェブマガジンでも「書写の用具研究」というコーナーを設けており、書写に興味をもつ入り口を増やしている点でも、評価できます。個人的にも単純に読み物として、面白いと思いました。

また、光村図書には「自分らしい文字」というコラムで著名人の直筆を掲載していますが、書くことや文字を見られることへの抵抗感を持っている人は年齢問わず多いのではと思うところ、「文字は個性のあらわれであること」を伝えていて、良いコラムだと思いました。

三省堂では「文字を扱う仕事」を紹介しており、書写の授業の目的がわからない生徒にとっては理解を深める意味で、こちらも良いコラムと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点で見ますと、東京書籍では、巻末の「書写活用ブック」が秀逸です。また、60ページの「本のポップを書こう」では、実際の店舗での応用事例を挙げてすぐに役立つ知識を伝えられており、こちらも秀逸だと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「補充的な学習・発展的な学習」について、多くのご意見をいただきました。光村書店の「別冊書写ブック」についての意見が複数あったかと思います。

また、各社ともに巻末の書式集について、学習した内容を実際に活用する工夫がされているとの意見が多くありました。

他にも、ご意見にもありましたが、東京書籍「生活に広げよう」で本のポップを書くことや、三省堂「やってみよう」では新聞や雑誌を作成するなど、学習した内容を生かす工夫がされています。

また、光村図書の「考えよう」では、生徒にとって親しみやすい漫画を使用して、手書きの良さをみんなで考える課題を出しており、対話的な学びを進める工夫がされています。

他に意見はないでしょうか。ないようでしたら、採決を取ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 0 人、三省堂 0 人、教育出版 0 人、光村図書 5 人

○見浪教育長

光村図書に 5 名挙手されていますので、採決の結果、書写は、光村図書を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、光村図書を採択いたします。

続いて、社会(地理的分野)の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について、簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

社会（地理的分野）4 社のうち、推薦図書 2 社についての特色等を説明させていただきます。

まず、帝国書院でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」「補充的な学習・発展的な学習」に特徴があります。例えば、すべての生徒にとって、使いやすくわかりやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されるとともに、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色等が配慮されています。

次に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」に特徴があります。例えば、「スキル UP」のコーナーで、地理的な技能を系統立てて学習できる工夫がみられ、「学び合い」マークは、生徒同士の話し合い活動が効果的に取り入れられています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしており、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「帝国書院」「日本文教」の2社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、観点のうちまず「内容の程度」「組織・配列」「学び方の工夫」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「組織・配列」について、各社とも「本文を見開きページの中央、写真や資料を周りに置く」構成としており、ひと目で見開き全体を見ることができるよう工夫されています。

各社ともSDGsの意識付けを図る意図が感じられ、日本文教出版、帝国書院、教育出版は巻頭の見開きページに掲載しています。さらに、日本文教出版は、「世界の諸地域」のはじめのページと、SDGsに関する箇所が出てきた場合に、別途マーキングがされていて、より意識付けされていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「組織・配列」について、各社とも「世界と日本の地理構成」「世界のさまざまな地域」「日本のさまざまな地域」という順序で学んでいくことにより、世界と日本の類似点・相違点を理解するのにはよい配列になっています。特に、藤井寺市が位置する近畿地方は、他の地域よりも歴史背景を重視しているところが好ましく、歴史的なものを大切に保全して、未来につなげる姿勢を学ぶことができます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」の観点において、日本文教出版では巻末に用語解説のページが設けられており、単元ごとのキーワードがわかりやすく説明されています。また、参照ページも記載されており、学習しやすくなっていると感じました。さらに、章ごとに小学校で学習した内容との関連付けも書かれています。

また、日本文教出版、帝国書院ともに学習の振り返りが細かく記載されており、振り返ることによって知識の定着がしやすくなっています。その中でも、日本文教出版においては「産業」「自然環境」「民族・文化」「持続可能な社会」など、テーマに分けて問いが書かれており、知識の整理がしやすくなっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「学び方の工夫」の観点において、東京書籍では主体的・対話的で深い学びが実現するように配慮されており、「みんなでチャレンジ」、「スキル・アップ」などのページに工夫が見られます。

教育出版では学習から興味や関心を広げていくコラムを用いて、主体的・対話的に学びを深める工夫がされています。

帝国書院では、「技能をみがく」というコーナーを用いて、主体的・対話的に学びを深める工夫がされており、特に293ページの「プレゼンテーション資料の作り方」が良いなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。意見としては、各社ともボリュームに多寡はあるものの、SDGsを意識した記載がなされていること、各社ともにコラムや課題を設定して、主体的・対話的で深い学びの実現に工夫されていることなどがありました。

また、日本文教出版と帝国書院については、振り返りが丁寧で知識の定着が図られるよう工夫されているとの意見もありました。

加えて、「内容の程度」や「組織・配列」の観点からは、各社ともに小学校で学習した内容や他教科との関係を様々なアイコンを活用して記載しており、小中の接続や教科横断的な視点を意識した構成となっており、生徒が抵抗感なく学習に入っていけるような工夫されていると感じました。

また、日本文教出版では、「近畿地方」の節で「世界文化遺産」の「百舌鳥古市古墳群」の記述の中で、古市古墳群の構成資産である応仁天皇陵古墳の記載があり、生徒たちに地元である藤井寺を誇り愛する意識を醸成してもらう上で、大切な観点であると思っています。

それでは、「人権の取扱い」、「補充的な学習・発展的な学習」について、意見をお願いします。

○足立委員

「人権の取扱い」について、各社ともページ構成に工夫が感じられる中、特に日本文教出版は、決められたページ構成を維持しようとする意図が感じられ、結果としてページをめくるときに統一感があり、見やすさを感じました。また、カラーコーディネート、特に補色の扱いが丁寧であることも、見やすさに繋がっている要因だと思いました。あと、帯グラフや円グラフを細い黒線で区切るなどして、色に頼らない読み取りができるように配慮されていると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「人権の取扱い」について、地理の地図の色分けは、色覚特性のある生徒には見分けることが難しいとされていますが、カラーユニバーサルデザインに配慮した色の組み合わせになっており、すべての生徒にとって使いやすい教科書となっていると思います。さらに、日本文教出版では大勢の人物を撮影した写真は顔が写らない

ように後方から撮影しており、人物が特定されないように、人権にも配慮されている点も好ましいと感じております。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、東京書籍では50ページの「屋根に草が生えている理由」、125ページの「バイオエタノール」、207ページの「ごみを出さない地域づくり」、において、未来に向けての環境を整えてどう生きていくかということが、地理の教科書から学べるということはすごいなと思いました。

帝国書院では、9ページの「緯度が違うと何が違う？」地軸が23.4度傾いているということをうまく視覚的に訴えてきますし、77ページではロシア問題は本当に微妙な問題ですけれども、そのあたりもきちんと生徒たちに伝えていこうという、その姿勢が素晴らしいと思いました。

日本文教出版では20ページの「日本の領域をめぐる問題をとらえよう」、68ページ「国境をこえた統合のあゆみ」、75ページに「ウクライナ問題でゆらぐヨーロッパ」というところで、出版社が頑張っておられることをすごく感じました。また、81ページの「持続可能な農業、焼畑農業」で、最終的には食料危機になってしまいうところを見据えて書いてあることは秀逸であると思いました。

○原委員

同じく「補充的な学習・発展的な学習」において、日本文教出版では地域の姿をとらえたり、節の問いを立てたりするための手がかりになるページとして「持続可能な社会をめざして」のテーマで取り上げられている部分が16箇所ほどあり、身近な問題から環境問題まで、深く掘り下げて考えられるように工夫されています。

また、ページの要所要所に「地理α」や「スキルアップ」などのミニコーナーが設けられ、知識や理解の向上ができるようになっている点が評価できます。

○見浪教育長

ありがとうございます。「人権の取扱い」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をいただきました。

「人権の取扱い」では、ユニバーサルデザインに配慮した配色等になっており、生徒にとって見やすく使いやすいものとなっていることや、日本文教出版で写真に顔が映らないようにして人権に配慮していることなどがあげられています。

また、「補充的な学習・発展的な学習」では、日本文教出版の「持続可能な社会を目指して」で、身近な問題から環境問題まで、深く掘り下げて考えられるよう工夫をしている点があげられています。

「人権の取扱い」の観点では、ご意見の他に、各社とも「アフリカ州」における子どもの労働の問題や「北アメリカ」における移民問題、人種差別問題などが取り上げられています。

地理という教科は、知識を学ぶだけでなく、世界の中の日本、日本の中の自分という関係性を見つめて、学習した内容をどのように身近な社会に生かしていくか、

さらには未来に向けて生かしていくかが重要だと思います。

その点で、各社とも思考力・判断力・表現力を醸成するための工夫をしていただいており、帝国書院の「アクティブ地理」や日本文教出版の「持続可能な地域を目指して」では、学習したことを活用して、社会課題解決に向けて思考し、グループで討議することで、多様な意見や見方を学び、考える深める工夫をしていると感じました。

他に意見はないでしょうか。それでは意見も出尽くしたようですので、採決に入ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 0 人、教育出版 0 人、帝国書院 1 人、日本文教出版 4 人

○見浪教育長

日本文教出版に 4 名挙手されていますので採決の結果、社会（地理的分野）は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

続いて、社会（歴史的分野）の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

社会（歴史的分野）8 社のうち、推薦図書 3 社について特色等を説明させていただきます。

まず、東京書籍でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「まとめの活動」では、その時代の風潮や時代の特色をふまえ、年表や資料、思考ツール等を活用して情報を整理するとともに、生徒が自分なりの考えを持ち、根拠を持って説明・議論できるよう工夫されています。

次に帝国書院でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、ページ構成について、本文ページ下段には、「小学校・地理・公民・他教科との関連」コーナーが設けられ、地理的分野、公民的分野との接続や、他教科との横断的な学習ができるよう、関連用語が提示されています。

最後に日本文教出版でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、章のはじめの「学習のはじめに」では、前後の時代を比較する資料を提示し、時代の変化をイメージできるよう工夫されています。さらに、学習課題とともに、解決に向けての手がかりとなる見方・考え方を示し、学習の見通しを持ち、深い学びが実現できるよう工夫されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしており、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「帝国書院」「日本文教出版」の3社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、観点のうちまず「内容の程度」「組織・配列」について、ご意見ををお願いします。

○永井委員

「内容の程度」という観点において、各社とも生徒の発達段階に応じた分量で、分かりやすい表現でまとめられていると感じました。また、各社が工夫の上、写真、挿絵、図、表がふんだんに掲載されており、内容を理解する上での手助けになっていると感じました。特に東京書籍は、単元の初めに人物のキャラクターが歴史上の疑問点などを挙げており、学びを深めることにより解決できることが工夫していると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「内容の程度」という観点において、各社とも生徒の発達段階を考慮した内容になっていると思いました。例えば、歴史全体の流れを学ぶ「第1章（第1編）」の冒頭ページに、日本文教出版、東京書籍、帝国書院では、歴史的人物のイラストを掲載しており、歴史の流れを楽しく一望できる工夫が見られます。特に東京書籍のイラストは特徴的で、記憶に残るように感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」という観点において、ページレイアウトについて、東京書籍、帝国書院、日本文教出版については、見開き右側の端に年表が掲載されていて、今学んでいる単元がどの時代で何世紀を学んでいるのかがわかりやすく記載されており、学習を進める上でとても参考になると思いました。

また、各社とも、巻末等に歴史年表を掲載しており、日本と世界の出来事を比較して書くなどの工夫が見られますが、日本文教出版は写真や図も載せており、さらにわかりやすいものとなっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「内容の程度」、「組織・配列」についてご意見をいただきました。

各社ともに、写真、挿絵、図、表がふんだんに掲載されており、特に、日本文教出版、東京書籍、帝国書院では、歴史的人物のイラストを掲載しており、生徒が抵

抗感なく、興味関心をもって学習に入っていける工夫をしているとの意見や見開き右側に年表があり、常に時代を意識しながら学習できる工夫がされているなどの意見がありました。

私として、歴史から学んで現代に生かしていくという視点が重要であると思っております。その観点から、複数社において、歴史を学ぶ意義が記載されているのは良いなと思いました。

また、歴史に興味関心をもってもらうことが重要であるところで、帝国書院の「タイムトラベル」では、見開きにイラストを掲載して時代の特色をつかめるよう工夫しています。日本文教出版では章の冒頭に異なる時代のイラストを配置して、変化を話し合わせる工夫をしています。育鵬社でも、各章の最初に絵巻物から時代の特徴を考えさせて、生徒が抵抗感なく内容に入ることができる工夫をしていると感じました。あと、帝国書院や日本文教出版では、「振り返り」として、学習の理解度や深まりを自己評価する構成となっており、主体的な学びの実現に工夫を凝らしていると感じました。

それでは、「人権の取扱い」「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見を願います。

○富山委員

「学び方の工夫」という観点において、各社とも歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫が見られました。

例えば、東京書籍では、導入資料→学習課題→本文→チェック&トライという流れで学び、そのあとに、「みんなでチャレンジ」、「スキル・アップ」で主体的・対話的な学びから深い学びにつながるように配慮されているように感じました。特に「まとめの活動」において、それぞれの追究課題をふりかえりながらまとめ、生徒が根拠を持って自分の意見を説明したり、友だちと議論したりできるような工夫が見られました。

また、日本文教出版については、主体的・対話的に学べるように、歴史との対話を未来に活かすように構成されていると感じました。さらに歴史を掘り下げるといふ7テーマがあり、学びを深める工夫がされています。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」という観点において、日本文教出版は編ごとの導入にある歴史年表の内容が詳しく、これから学ぶ時代への興味付けとなっていると思います。また、「学習のはじめに」において「問い」がたてられており、まとめでその問いの答えを整理していくという学習の要点や流れがわかりやすくなっているように感じました。

また、ところどころに「歴史を掘り下げる」など歴史の学習を幅広く豊かにするテーマの特設のページがあり、補充的な学習や発展的な学習ができるようになっているなと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「学び方の工夫」という観点において、中学校で取り組まれている探究学習の視点が歴史にも取り入れられていることが良いと思いました。例えば、東京書籍では、「古代に日本では、どのように国家が形成されてきたのか」について探究課題が掲載されており、「ステップチャート」などの思考ツールの活用を通して、探究課題を解決させるところが良いと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」という観点において、各教科書において SDGs の視点を取り入れた記載が見られますが、特に日本文教出版では、歴史上の出来事にも SDGs との関連を明示しており、79 ページになりますけれども先人に学ぶというコラムにも SDGs との関連を明示しており、温故知新の必要性を伝えているように感じまして、評価しています。

また、日本文教出版と帝国書院には、藤井寺市の生徒たちにとって身近な「誉田御廟山（応神天皇陵）古墳」の取扱いがあり、郷土に親しみを持ったり、誇りに感じたりすることにつながるのではないかと期待できると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」という観点において、各社とも学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるような配慮がみられました。

各社の巻末資料などを見ていると、東京書籍の巻末1には、「歴史の中の植物」が写真と共に紹介されており秀逸でした。日本文教出版では301 ページに歴史学習の基礎資料として、「五穀と四木三草」が写真とともに紹介されており、これも秀逸だと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」でご意見をいただきました。

主な意見として、生徒が学習の見通しを立てやすい工夫や思考力・判断力・表現力を醸成する工夫がされているとの意見がありました。

また、各社とも、SDGs の観点や歴史を現代に生かす視点を取り入れられているとの意見がありました。

誉田御廟山（応神天皇陵）古墳の取扱いがあり、郷土に親しみを持ったり、誇り

に感じたりすることにつながるのではないかと意見がありました。

意見は出ていませんでしたが、「人権の取扱い」に関しては、東京書籍が「もっと知りたい」で「琉球文化」や「アイヌ文化」などが詳述されており、教育出版社では「歴史を探ろう」で「働く女性や子どもたち」について、日本文教出版では「歴史を掘り下げる」で「水平社の創立と様々な人権運動」などについて、詳述されています。分量の多寡はありますが、各出版社ともに人権の観点からの記述があると認識しています。

私としては、歴史を学ぶということは、歴史上の出来事や先人の知恵を教訓として、現代社会に生かしていく視点が重要であると思っています。

先ほど委員の意見でもありました、SDGs との関連や歴史を掘り下げ未来に生かす視点は、重要であると思います。その観点では、東京書籍の「もっと知りたい」、教育出版の「歴史を探ろう」、帝国書院の「アクティブ歴史」、日本文教出版の「先人に学ぶ」「歴史との対話を未来に生かす」、自由社の「外目の日本」などは、歴史の見方・考え方を踏まえて、深く学ぶ工夫がされていると思います。

他にご意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 2 人、教育出版 0 人、帝国書院 0 人、山川出版社 0 人、
日本文教出版 3 人、自由社 0 人、育鵬社 0 人、令和書籍 0 人

○見浪教育長

日本文教出版に 3 名挙手されていますので採決の結果、社会（歴史的分野）は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

続いて、社会（公民的分野）の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

社会（公民的分野）6 社のうち、推薦図書 3 社についての特色等を説明させていただきます。

まず、東京書籍でございますが、各項目においてバランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、導入の「みんなでチャレンジ」や見開き右下部の「トライ」、章末の「確かめよう・ふり返ろう・深めよう」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されています。

次に帝国書院でございますが、各項目においてバランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「アクティブ公民」では、学習の内容に応じたテーマとパフォーマンス課題

を設定しており、対話から学びを深める協働的な学習ができるよう工夫されています。

最後に日本文教出版でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、各編の導入「学習のはじめに」で示された身近な場面と結び付けた学習課題に基づいて章の問いや節の問いをたて、見通しをもって学習を進め、「学習の整理と活用」で学習内容を整理するという構成になっています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「帝国書院」「日本文教出版」の3社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「組織・配列」という観点において、ページのレイアウトに関しては、各社とも「本文を見開きページの中央、写真や資料を周りに置く」構成としており、ひと目で見開き全体を見ることができるよう配慮されていたことは評価できます。

SDGsの記述に関して、各社とも今日的な課題として巻頭の見開き部分などで取り上げていますが、日本文教出版では、本文中でSDGsと特に関連する箇所をマークで示しています。また、帝国書院では、章末の振り返りでSDGsの視点で振り返る設定をするなど、関連事項についての記述が各所で見られ、意識付けを高めていこうとする意図を感じます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」という観点において、東京書籍、日本文教出版、帝国書院いずれも、見開きのページにSDGsに関連した写真や説明をつけており、よりよい社会への実現にむけて考えていくための問題提起しているのがよいと思いました。最終章では「国際社会と課題」として、どの教科書も国際平和問題から持続可能な社会を実現するために、順を追って考えられるように工夫されていますが、特に東京書籍は、表やグラフ、写真なども適切に使われており、視覚的にもわかりやすくなっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「組織・配列」という観点において、他教科、他種目の教科書では、小学校での学びを掲載して中学校での学びと関連付けるものが多くみられましたが、公民では、小学校の社会科や中学校での地理的分野、歴史的分野、特に中学校の「公民」から高等学校の「公共」へと移行するために、そのつながりや関連について説明を加えている発行者もみられました。科目名称が変わることにより、これまでの学びが継続できるようにした配慮だと考えられ、将来に結びつけることとして評価することができます。特に、日本文教出版の巻末は未来のことが記述されており、充実していると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「人権の取扱い」という観点において、各社ともユニバーサルデザインに関する配慮がなされているが、特に日本文教出版は、決められたページ構成を維持しようとする意図が感じられ、結果として冊子全体に統一感がありまして、個人的には非常に見やすいと感じました。

また、カラーコーディネート、特に補色の扱いが丁寧であることについても、地理と同様に見やすさに繋がっている要因だと考えています。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、「組織・配列」、「人権の取扱い」について意見をいただきました。

主な意見としましては、SDGsに関連するものや小中高のつながりを意識した記述、教科横断的な視点を踏まえた記述がみられるとのご意見がありました。

また、「人権の取扱い」では、ユニバーサルデザインに関する意見がありました。

私としては、生徒が「公民」学習に意欲をもって取り組んでいくためには、公民を学ぶ意義をしっかりと説明して動機づけをしていくことが重要であると感じております。その点では、各社とも公民を学ぶ意義を記載いただいていると認識しています。

また、学習の導入にあたって、教育出版社は「公民のノートづくり」や「公民へのアプローチ」としてメディアの活用、情報を整理する方法と思考ツール等を丁寧に記載しており、学習の理解を深めるための工夫を感じました。

各社ともに、章の問いや章を構成する各節の課題、さらには1時間単位での学習課題を設定し、学習をステップアップさせながら、最後に振り返りで確認するという構成になっており、生徒が見通しを立てながら学習を進めることができる工夫がされています。

その中で、日本文教出版では、冒頭の漫画をもとに、話し合い、学習内容を想像して、円滑に学習に移行できる工夫をしていると感じました。

「人権の取扱い」では、東京書籍の「もっと知りたい」、教育出版の「持続可能な社会に向けて」、帝国書院の「未来に向けて」、日本文教出版の「明日に向かって」、自由社の「もっと知りたい」、育鵬社の「学習を深めよう」で、性の多様性、差別等

を取り上げ、考える内容となっています。

また、帝国書院や日本文教出版については、メディアリテラシー、ネット社会との付き合い方について記載されており、中学生の課題を捉えていると感じました。

それでは、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、意見をお願いします。

○富山委員

「学び方の工夫」という観点において、各社とも社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について工夫が見られました。

帝国書院の「アクティブ公民」は、学習の内容に応じたテーマと課題が設定されており、対話から学びを深める協働的な学習ができるよう工夫されており、巻末の資料には、日本国憲法をはじめ、充実した資料が掲載されていました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」の観点において、「くらしと経済」の学習の導入場面で、東京書籍では「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」や、帝国書院では「パン屋さんを起業してみよう」といった課題を設定し、実際に経営者としての視点で具体的な経済活動の流れを考えさせるような工夫が見られました。また、両社とも章末で導入の活動と対応した内容のふりかえりが設定されており、学習したことを整理しやすくなっているなど感じました。

また、成人年齢の引き下げに関わって、各社とも主権者教育や消費者教育に関する記載がありますが、東京書籍は「18歳のステップ」で18歳成人について、日本文教出版の「明日に向かって」では、15歳が大人であるか子どもであるかについて考えさせるページが設けられており、年齢によって変わる権利と責任についてわかりやすく記載されており、社会参画へつながる工夫が見られました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」という観点において、各社ともに巻末や特設のページが充実していると思いました。

例えば、東京書籍では、巻末の「公民の学習をこれからの学習に生かす」において、高校へのつながりを示しているところや、「もっと知りたい」というコラムの内容も充実していました。

帝国書院の「18歳への準備」で取り扱っている「メディアリテラシー・契約・ライフプランと金融」の3テーマも実践的な知識を学ぶページとして充実していると思いました。

また、日本文教出版の57ページの「明日に向かって」では、堺市でバリアフリーを探そうという、藤井寺市近隣の身近な地域に関する学習が充実していると思い

ました。また、このページには実際の点字が印刷されているのに驚きました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」という観点において、各社とも章末に学習した内容を確実に習得できるように振り返りやまとめのページが設けられており、教科書に書き込みができるスペースも設けられています。ノート以外にも教科書に習得した知識を記入することで、さらに学びが深まると考えられます。

○見浪教育長

各委員から、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、意見をいただきました。

主な意見としましては、社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について工夫が見られた、「補充的な学習・発展的な学習」の観点で巻末や特集のページが充実している、18歳成人に向けて社会参加につながる工夫がみられるとの意見がありました。

公民を学ぶにあたっては、社会の一員として、社会の仕組みを学び、その働きに積極的に参加していくことでより良い社会の実現に貢献していくことが重要であり、各社とも学習した内容を生かして、社会でどのように生かしていくのかといった観点から、思考力・判断力・表現力を醸成していくよう工夫されています。

その中で、日本文教出版の「チャレンジ公民」では、「道路の拡張計画を考えよう」、「自分たちの首長を選ぼう」など、ユニークな課題が設定されており、主体的・対話的で深い学びの実現に工夫されていると感じました。このほか、自由社の「アクティブに深めよう」や育鵬社の「学習を深めよう」でも、対話を通じて深い学びを実現する内容となっていると感じました。

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 1 人、教育出版 0 人、帝国書院 1 人

日本文教出版 3 人、自由社 0 人、育鵬社 0 人

○見浪教育長

日本文教出版に 3 名挙手されていますので、採決の結果、社会（公民的分野）は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

続いて、地図の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推

薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

地図2社のうち、推薦図書1社についての特色等を説明させていただきます。

帝国書院でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、すべての生徒にとって、使いやすくわかりやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されるとともに、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色等配慮されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「帝国書院」でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まず観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「内容の程度」について、東京書籍、帝国書院ともに、縮尺にバリエーションを持たせ、適宜表示内容によって使い分ける工夫がされています。

帝国書院では、世界地図における各州の鳥瞰図も用意されており、迫力のある地形の様子を伝えています。また「大陸から見た日本」という新しい視点が新鮮で、現在の技術ならではの表現であること、グローバル社会であることを感じました。

また、帝国書院は地域理解を深める手段として、主題が異なっても同じ縮尺の地図を使い、比較や関連付けがしやすいようになっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」について、帝国書院では、項目によって資料はオレンジ、世界は赤、日本は緑、統計は紺、さくいんは紫、というように色分けされており、学びたいところがパンッと視覚的に飛び込んでくるところがいいなと思いました。生徒さんからしてみれば、教科書を開いて目次を利用するときに、どれだけ視覚的な効果があるかというところを意識されているなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

同じく「組織・配列」について、小学生の地図帳から馴染みのある帝国書院の地

図帳が見慣れています。が、中学校版においても、同じ 50000 分の 1 の地図を東京書籍と比べると、中心部から広範囲で詳しく掲載されています。また、ページごとに「地図で発見！」というコーナーがあり、押さえておくポイントがわかりやすくなっていると感じました。

東京書籍の地図において、近畿地方（大阪市内）では、大阪駅北側の土地利用の変化として令和 4 年の新しい写真とも比較してわかりやすくなっていますし、また、東京書籍には、帝国書院には載っていない藤井寺の「岡ミサンザイ古墳」や「国府遺跡」の表記があるので、地元の勉強においてはなじみやすい部分があるのではないかなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「人権の取扱い」について、地理の地図の色分けは、色覚特性のある生徒には見分けることが厳しいとされているが、両社ともカラーユニバーサルデザインに配慮した色の組み合わせになっており、すべての生徒にとって使いやすい教科書となっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「内容の程度」、「組織・配列」、「人権の取扱い」について、ご意見をいただきました。

両社ともに、カラーユニバーサルデザインに配慮しているとの意見がありました。

また、帝国書院、東京書籍それぞれの見せ方・工夫についての言及もありました。

「内容の程度」になりますが、東京書籍は、例えばアフリカ州の資料で、横断図が掲載されており、高度の変化やその中での農業の分布が学習できるなどの工夫がされていると感じました。帝国書院については、ページ数が東京書籍に比べて 20 ページ程度多く、その分量を日本の近隣諸国であるアジアに係る地図データとして掲載しており、アジアの様々な状況が地図資料として理解できる工夫をしています。

「南アジア」「西アジア」の分野では、宗教、油田、労働など必要に応じて、対象地域に限定せず、隣接する地域まで含めて分布図を掲載しているのは、関係性が見えていいなと思いました。

「組織・配列」に関しては、東京書籍、帝国書院ともに、冒頭で小学校で学習した内容が記載されており、小中接続を意識した工夫がみられます。

また、「人権の取扱い」としては、帝国書院では、「地図で考える持続可能な社会」、東京書籍では、「現代社会の課題を解決するために「SDGs」を知ろう！」において、食糧問題や難民、紛争について記述していますが、内容としては帝国書院が充実していると思いました。

それでは、「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」に関して、ご意見をお願いします。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、東京書籍、帝国書院ともに、デジタ

ルコンテンツが用意されており、東京書籍のコンテンツ数は定かではありませんが、帝国書院は1000近いデジタルコンテンツがあり、個別学習には十分な用意がされていると思いました。また、東京書籍、帝国書院ともにSDGsの記載があり、しっかりとした意識付けが図られているなど感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、帝国書院では、「地図で考える持続可能な社会」という特集が巻頭にあり、世界規模で考えていかなければならない問題が写真や統計を用いてわかりやすく説明されており、生徒たちが関心を持つべきテーマを多くのページを用いて掲載していることが良いと思いました。

また、世界の生活や文化におけるの単元も、写真を多く用いてわかりやすく説明されていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、地理の学習と共に日本及び世界の統計が記載されており、地理的な背景をこの統計データからも学ぶことができます。統計データは、社会情勢等が反映されて変化することから、最新のデータを把握することが大切です。テキストの世界の統計一覧では、東京書籍が2020年であることに對し、帝国書院は2021年の最新のデータを掲載していることに好感が持てます。一方で、日本の統計データは、一部東京書籍が最新のデータを掲載しており、こちらも好感が持てました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、帝国書院では、55ページのドイツの混合農業に関する資料が、また67ページには大規模に行われるアメリカ式の農業に関するものが少しですが載っており、地図から農業に関するものが学べるところが秀逸だと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」についてご意見をいただきました。

デジタルコンテンツの豊富さやSDGsとの関連付け、統計データの新しさについてご意見をいただきました。また、世界規模の課題を写真や統計を用いてわかりやすく説明しているとのことご意見もありました。

これからのグローバル社会の中で、地理や地図を見る観点として、単に日本や世界の単一の地域を見るのではなく、世界の様々な地域を関連づけて見、そして地球規模で考えた時、自分たちは何ができるのかという視点を持つことも重要だと思います。

帝国書院では、テーマに応じて、隣接地域も含めた地図を記載することで、世界の地域の関係など、グローバルな動きが見えるよう工夫していると感じました。

また、東京書籍では「Bee`s eye」、帝国書院では「地図で発見」で、それぞれ地図や写真から読み取れることを考えたり、調べ学習をするなど深い学びを実現するための工夫をしていると感じました。

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 0 人、帝国書院 5 人

○見浪教育長

帝国書院に 5 名挙手されていますので採決の結果、地図は、帝国書院を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、帝国書院を採択いたします。

続いて、数学の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

数学 7 社のうち、推薦図書 3 社についての特色等を説明させていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に、「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、単元の導入では、サッカーチームの現状を考える場面を扱うなど、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われています。

次に啓林館でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、巻末の「数学広場」では、各単元の学びを数学の世界や身の回りで活用する課題を豊富に用意し、数学を学ぶ意義や有用性を実感しながら学びに向かえるよう工夫されています。

最後に数研出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、巻末に各学年の内容を領域別にまとめたページが設けられており、算数の内容も系統立てて確認でき、小中のつながりをとらえることができるように配慮されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「啓林館」「数研出版」の3社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「組織・配列」について、どの出版社も学生キャラクターが登場し、読者に対して問いかけやアドバイスをしています。なかでも数研出版は全体を通じてキャラクターの対話形式としており、理解させる工夫がみられます。また、各単元の導入部分では、どの出版社も身近な物事を題材に取り上げ、抵抗感の払拭に努めている印象があります。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」について、どの教科書会社も生徒の登場人物と案内役のキャラクターを設定しており、解くためのヒントや考え方を誘導していて、わかりやすくなっています。特に、数研出版、啓林館、東京書籍は、非常に効果的に配置されていると感じました。また、啓林館においては、外国の生徒も登場しており、豊かな内容となっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「組織・配列」について、すべての教科書が生徒の発達段階を考慮した内容になっていますが、啓林館は他の教科書よりも「ひろげよう」「考え方」「説明しよう」など一次方程式の解き方のヒントや、この後の学びに続くような仕組みが多く記載されているところがいいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」について、東京書籍では「数学×スポーツ栄養士」や、「数学×伝統工芸士」といったように、数学が計算を解くだけではなく、色んな職業においてこういった場面で使われているのか、数学的な考え方がどのように役立つのかを紹介

介しているのが面白いと感じました。数学が苦手な子でも、勉強する意味を考える役目の一つになると思います。

また、目次のページでは、東京書籍は單元ごとに「前の学習」が並べて記載されているので、復習や関連性を考えるときに役立つと思われます。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、「組織・配列」についてご意見をいただきました。

生徒が抵抗感なく学習に入っていける工夫や数学を学ぶ動機づけ、学習内容について理解を深める仕組み等のご意見があったと思います。

数学を学習することで、論理的な思考が身につくと言われています。そうした論理的思考は、様々な教科での課題を解決する上で基礎となるばかりでなく、将来、社会に出た後も非常に有用なものであると言われています。

一方で、数学はどうしても生徒にとっては、とっつきにくい教科です。各出版社ともに、そうした観点からキャラクターを使用したり、身近な題材を使用したりと工夫をこらして、抵抗感を少なくして学習に入っていけるよう工夫いただいている点は敬意を表したいと思います。

また、各社ともに、單元ごとの課題を明確にしながら、「例題」と「問い」を徐々に難易度を上げながら繰り返し、生徒の理解を高めていく構成となっています。そうした中で、私は「啓林館」の各ページの表題の付け方や矢印の使い方が見やすいと感じました。

それでは、「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」についてのご意見をお願いします。

○足立委員

「学び方の工夫」について、ほとんどの出版社で「ノートのとおり方」を掲載していますが、個人的には「知っておいた方が良い内容」と捉えています。なかでも、特に「まちがいは消さずに残しておく」という記述があるかないかは、学びの本質を理解している点と考えています。数研出版、教育出版、学校図書にはその記述があり、教科書全体に学びの本質が反映されているのではないかと期待感を持たせられると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「学び方の工夫」について、数学は計算だけでなく、考え方も重要だと考えており、そのためにノートの取り方も身につける必要があると思います。多くの教科書の最初の方にノートのつくり方が記載されているので、生徒にとって参考になるのではないのでしょうか。特に啓林館は、見やすくポイントもしっかり記載されていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「学び方の工夫」について、啓林館1年の166ページでは、状況を整理・問題を設定し、解決の見通しを立てて問題を解決、そして振り返って話し合いといった学びのプロセスがステップとしてわかりやすく記載されており、子どもたちの学び方に工夫がされていると思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」について、空間図形においてはいろいろな形をしている建物を紹介しており、学習の導入が工夫されているなど、どの教科書も写真と挿絵をバランスよく使っており、教科書での学習がしやすくなっていると感じました。特に、1年生のスタート「正の数・負の数」の単元では、啓林館や数研出版は写真をたくさん用いて普段の生活で馴染みのある場面を紹介して、正の数や負の数が使われていることを紹介しているのがわかりやすいと感じました。

また、関数の単元で、啓林館と東京書籍でジェットコースターの例で説明をしているなど、生徒たちの学習の興味を引き出す工夫をされていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、どの出版社もデジタルコンテンツを用意しており、理解に努めようとする姿勢が見えます。なかでも数研出版は多くのコンテンツがあり、充実していると感じます。また、「全国学力・学習状況調査」の問題を参照できるようになっており、効果的にリンクさせているなどと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、啓林館1年の247ページ「数学広場」では、「学びをふりかえろう」や「力をつけよう」、「学びをいかそう」といったコーナーで構成され、学習した内容を確実に習得できるよう、十分に配慮されていると感じました。また、その前の245ページの「数学ライブラリー」では「降水確率60%なら、かさは必要？」というテーマで、生徒たちに考えさせる内容になっているところはいいと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、「ノートを取り方」が掲載されていること

に対して評価する意見と、出版社によって内容が異なる点について意見がありました。

また、学習内容の確実な習得に向けての工夫についての意見がありました。さらには、デジタルコンテンツの充実度に関する意見も出たと認識しています。

先ほども申しましたが、数学は論理的思考を醸成することが大事な教科であり、基本の理屈をしっかりと身につけることで、応用問題にも当たれるようになるものと認識しています。しっかりと理屈を考えることで、「ブレークスルー」できると考えています。

そういった観点から、例えば、啓林館は、「文字式の加法・減法」の「 $5x - 3x$ 」の取扱いにおいて、面積図で示している出版社が多い中、「 x 」が5個、3個あるブロックをイラストで示し、数式の理解だけでなく、視覚的にも理解しやすいように工夫がされており、小学校と比べて抽象的になっていく象徴である文字の導入が、最も丁寧だと感じました。

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 1 人、大日本図書 0 人、学校図書 0 人、教育出版 0 人、
啓林館 3 人、数研出版 1 人、日本文教出版 0 人

○見浪教育長

啓林館に 3 名挙手されていますので採決の結果、数学は、啓林館を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、啓林館を採択いたします。

続いて、理科の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について、簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

理科 5 社のうち、推薦図書 3 社についての特色等を説明させていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「内容の程度」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、単元などの巻頭には、ダイナミックに写真やイラストを掲載しており、視覚的に生徒の思考や学習意欲を喚起しようとされています。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「ハローサイエンス」などで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されています。

最後に啓林館でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「お

料理ラボ」「お仕事ラボ」等の科学コラムで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「教育出版」「啓林館」の3社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○原委員

「内容の程度」について、東京書籍、啓林館、教育出版で比べると、東京書籍と啓林館は割と写真や図が大きく掲載されており、細かい部分が学習しやすくなっています。また挿絵の程度もちょうどよく、生徒たちの対話を通して学習のヒントを得られやすくなっています。表紙の写真についてはどれも質がよく、とてもきれいに感じられます。2年の教科書では元素記号が紹介されていますが、東京書籍、教育出版においては身近にあるどのようなものと元素記号が関連付けられているかを、絵や写真を用いてわかりやすく表記されています。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「内容の程度」について、啓林館では、単元の巻頭にはその単元に関連したダイナミックなカラー写真が使用されており、まるで科学図鑑を見ているような気がします。単元の内容にも他教科以上に多数の写真を用いてビジュアル感が高いです。この仕組みは、理科の学びへの高揚感を生じさせるようになっていると感じます。実験も多くの写真で示しているので、授業の復習にも役に立つと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「組織・配列」について、各社ページ構成に違いはありますが、啓林館と大日本図書は見開き中央部に本文を掲載しています。啓林館は写真や図が多いと感じますが、見開き形式の良さをより生かしていると感じます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「組織・配列」について、理科は、探究学習に取り組みやすい教科ですが、教科書にもそのような学び方が随所にみられます。例えば、啓林館の3年87ページ「探究Q実習1 金星の見え方の変化」では「課題→仮説→計画→結果→考察」、さらに「発表」までの探究学習の道筋を丁寧にレクチャーされています。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」について、教育出版では「疑問→課題→仮説→計画→観察・実験→考察→結論」という探究的な観察の進め方が、基本の単元構成となっています。また、単元ごとに要点と重要用語の整理があり、基本問題とともに振り返ることができます。生徒たちが将来理系に進んだら、学術論文を書くときの論理的な思考をここでは学べるのではないかなと思い、感動しました。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から「内容の程度」、「組織・配列」について、ご意見をいただきました。

主な意見としましては、写真やイラストの配置など生徒の興味関心を喚起する工夫や探究学習の進め方の工夫などについて、ご意見をいただきました。

子どもの科学離れが深刻化する中で、数学と同様にまずこの教科に興味関心を示してもらって、科学を好きになってもらうことが大事だと考えています。その観点で、まずは生徒が抵抗感なく教科書に入ることが重要であり、そのためには表紙や本文を含めて、見え方が大事だと思っています。その点では大判のところが多く、写真やイラストをふんだんに使用して、生徒にとって見やすくわかりやすいものとなっています。

また、東京書籍では、「これまでに学んだこと」、学校図書は「振り返ろう・つながよう」、啓林館は「つながる学び」で、それぞれ章の冒頭に小学校で学習した内容を記載しており、1年生にとってはスムーズに学習に入れる工夫をしていると思います。

理科を学習するにあたって、「探究とは何ぞや」を示すことも重要であり、その観点では、大日本図書が6ページ、教育出版は3ページを割いて、丁寧に記載しています。各社ともに、単元の最初に大きな課題を提示するとともに、観察や実験、学習前に解決すべき課題を明確にして、学習の見通しが立てやすい構成としています。

「人権の取扱い」では、安全の確保や事故防止について、出版社によって記載している位置は異なるものの、各社ともに理科室のきまりを記載し、実験において注意すべき点について記載されています。

それでは、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「学び方の工夫」について、啓林館と教育出版、学校図書、大日本図書は単元の

はじめを単元の内容が分かりやすい画像を見開きで見せており、内容を伝えやすくしています。東京書籍は単元はじめに導入用の「スタート動画」を、啓林館は各章はじめに「はてなスイッチ」という動画を用意しており、これから学ぶことについてより分かりやすく伝えようと努めている印象を受けました。また、どの出版社も身の回りの内容を扱うコラムを用意しており、日常生活や社会と関連付けて学ぶことができるようにしているように感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「学び方の工夫」について、啓林館では「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災減災ラボ」、「深めるラボ」など、サイエンス資料など役立つ知識が紹介されており、科学が日常の一部であることがわかるようになっています。

続いて、「補充的な学習・発展的な学習」について、教育出版の「ハローサイエンス」では役立つ知識が紹介されており、例えば1年の41ページではリンネと牧野富太郎の紹介、119ページの打ち水、戻って28ページの虫媒花・風媒花といった内容なども秀逸なコラムだと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、啓林館、東京書籍共に、単元ごとに確かめ問題や力だめしといった問題が盛り込まれており、学習内容の整理がしやすくなっています。また、啓林館は「サイエンス資料」、東京書籍は「まなびを広げよう自由研究」として資料を細かく載せており、実験や研究に役立つものとなっていると思います。東京書籍では科学に関連する職業をしている方々を紹介しており、科学を通して学んだことや追及していることをわかりやすく説明しているので、子どもたちの興味関心をひきやすくなっていると思いました。

○見浪教育長

他に意見はないでしょうか。ありがとうございました。各委員から、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をいただきました。

主なものとしては、単元の入り方の工夫や日常生活と関連付けで理科を学習する点で工夫がみられるというものでした。

「学びの工夫」では、東京書籍の「Befor&After」で、2次元コードから印刷したワークシートを利用して、学習前と学習後の理解度を自己評価する構成になっており、主体的な学びの実現に工夫していると思いました。教育出版では、章の最後に「学習後の私」があり、最初の「学習前の私」と比較して、学習の理解度を自己評価する構成となっています。啓林館では、「レビュー」として章の学びを振り返り、さらにやりたいことを考えさせて学びに向かう姿勢を引き出す内容となっています。

理科で学習した内容が実生活でどのように役立つのかを学ぶことが重要です。そ

の中で、理科に対する興味関心を持ち、将来の科学者への夢を育てる、生徒にとってわくわく感のある教科書が大事なかなと思います。その点で、各委員の意見にありました各出版社で掲載されている「コラム」は工夫されているものと認識しています。加えて、啓林館の「みんなで探Qクラブ」では、学習した内容から生じた疑問を課題や仮設に成長させ探究する内容であり、科学に対する興味関心を喚起し、思考力・判断力・表現力を醸成する構成となっていると感じました。

それでは、意見が出尽くしましたので、採決に入りたいと思います。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 1 人、大日本図書 0 人、学校図書 0 人、
教育出版 1 人、啓林館 3 人

○見浪教育長

啓林館に 3 名挙手されていますので採決の結果、理科は、啓林館を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、啓林館を採択いたします。

続いて、音楽（一般）の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

音楽（一般）2 社のうち、推薦図書 1 社についての特色等を説明させていただきます。

教育芸術社でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、「学びのコンパス」で、示された手順に沿って学習を進めることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら思考、判断し、表現できるよう工夫されています。さらに、キャラクターの発言や演奏者からのアドバイスで学習のポイントやヒントを示しています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「教育芸術社」でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いします。整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」について、ご意見ををお願いします。

○原委員

「内容の程度」について、まず表紙のデザインにおいては、教育芸術社の方が音

樂の楽しさや躍動感が感じられ、中学生受けしそうだと感じました。

また、教育芸術社、教育出版ともに、歌唱、創作、鑑賞と大きく3つに分けられ、單元ごとに色分けされていて分かりやすいと思います。

最後に、生徒たちにも馴染みのあるポピュラー音楽のジャンルについては、教育芸術社が海外編と日本編に分けて種類も多く紹介しています。こういうところは、生徒たちの興味関心を引きやすいと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「内容の程度」について、教育芸術社は、2・3下巻の58ページから63ページに、ポピュラー音楽についてのジャンルなどを紹介しているのが秀逸だと思います。ロック、ジャズ、ボサノヴァ、カントリー、フォーク、ブルース、R&B、フュージョン、ファンク、ヒップホップ、ラテン、レゲエ、エレクトロニカ、浪曲、歌謡曲、演歌、アイドル、ニューミュージック、アニメソング、テクノポップ、渋谷系などのジャンル分けについて、きちんと書いているところに感動しました。

また、1の37ページ「イメージと音楽」では、「ジョーズのテーマ」を取り上げ、指導しています。エンターテイメントに付随する楽曲について紹介しているのも秀逸だと思います。何よりも1の見開きで、俳優・歌手の上白石萌音さんが出てきており、朝ドラにも出演された彼女が中学校の音楽を習っていたから、今舞台やミュージックができると言っておられるんですよね。歌うことが将来仕事になるかもしれないというところを生徒たちに芽生えさせるためにはすごく良い構成になっていると思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「内容の程度」について、鑑賞として「魔王」を2社ともに取り上げていますが、教育芸術社の方が学びのコンパスというプラスのページにおいて、「魔王」の曲想の変容を捉えるなど、一段上の学びを得られる仕組みになっていると感じました。一方、箏曲「六段の調」では、教育出版の方が琴に関する説明が多いように思いました。音楽の全体の学びを紹介しているページでは、教育芸術社の方が教育出版に比べて分かりやすく、明確に学びを把握しやすい紙面構成になっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「内容の程度」について、教育出版は表現の活動について、歌唱では思いを込めて、「曲の特徴→曲の形式→曲想の変化→パートの役割→民謡の特徴の捉え、ふさわしい声で歌う」というように、生徒の発達段階を考慮した内容になっています。鑑

賞の活動については、「曲の形式を捉える、曲想の変化を感じる、民謡を味わう、箏曲の表現、尺八曲の表現、アジア地域の多様な声による表現」などを考慮するように構成されています。また、教育芸術社は、表現活動について、歌唱では、「歌唱表現を創意工夫する→曲想や構造、歌詞との関わり→音色や言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり→発声、発音、身体の使い方」など知識と技能を意識した構成となっており、どちらも生徒の発達段階を考慮した構成となっていると感じていて、感銘を受けました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「組織・配列」について、教育芸術社、教育出版ともに、巻頭の学習内容では、「歌唱」「鑑賞」「創作」の3項目と関係する教材を明示し、学びの目的が分かるようになっています。教育芸術社では、資質・能力の三つの柱のうち、「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」との関連も明示し、どのような音楽の力を身につけることができるかを確認することができるようになっている点がいいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」について、教育出版は、「歌唱」「鑑賞」「創作」の順に配列されていて、見るマーク、聴くマーク、記録するマークなども充実しています。教育芸術社は、歌唱マーク、創作マーク、鑑賞マークを使って、各楽曲をマーキングしているので、効果的な指導が行われるよう組織・配列されていると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、内容の程度、組織・配列についてご意見をいただきました。

「内容の程度」では、表紙のデザインや掲載する楽曲など、生徒に受け入れられやすい工夫についてのご意見がありました。また、生徒が見通しをもって学習できるかといった視点やどのような学びが得られるかといった視点でのご意見もあったと思います。

音楽の授業では、音楽に興味を持ってもらう、歌うこと、楽器を弾くことの楽しさを感じてもらえればと思います。音楽は人生を豊かにするものであり、是非好きになってほしいと思っています。そういう観点でいうと、委員からも出ていましたが、生徒が抵抗感なく、手に取って学習できるものが良いと思います。教育芸術社は表紙に生徒たちをモデルにしており、受け入れやすいと感じました。また、歌うための準備を「リズムゲーム」というゲーム形式で行うことで生徒が入りやすいと感じました。

それでは、「人権の取扱い」、「学び方の工夫」、「補充的な学び・発展的な学び」の観点からのご意見をお願いします。

○富山委員

「人権の取扱い」について、教育出版、教育芸術社ともに、人権尊重の観点から日本のみならず、世界で有名なものまで広く選曲されています。そのほか、文章、写真、イラストなども適切に考慮されていると感じました。フォントや文字の大きさなどもユニバーサルデザインを意識した構成となっていると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」について、教育芸術社は曲の紹介や合唱曲の紹介において、必ず上部にしおりのようなイラストで、注意すべき点や歌い方等がコメントされていて良いと思います。また、教育芸術社は「学びのコンパス」というページが盛り込まれており、單元ごとに工夫する点などを確認したりとらえたりすることができるように感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「学び方の工夫」について、教育出版は、進んで学びあうための活動例を紹介しているマークである「Active!」や「音のスケッチ」というマークで、主体的・対話的で深い学びが実現するようになっています。言語活動については、1の13ページ「歌うための準備」で、母音の発音など、発生を美しくするといった紹介もありました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、教育芸術社では、巻頭の「音楽って何だろう？」というコーナーで、著名人へのインタビュー記事を掲載しています。一見音楽とは関係のない仕事をしていると思われる方々の話のため、逆にリアリティを感じ共感を得やすい内容と思われ、学習意欲の向上につながることを期待されます。音楽とSDGsの関わりを紹介しており、音楽に関する知的財産権の話や「英語の曲の歌唱」「俳句を用いた旋律創作」などの教科横断的な学びの充実に努めています。また、教育芸術社は350点を超えるデジタルコンテンツを用意しています。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、「人権の取扱い」、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をいただきました。

「人権の取扱い」では、教育出版社、教育芸術社ともに、国際理解の観点から世界の楽曲を紹介しているとの意見がありました。

「学び方の工夫」では、音楽的な見方・考え方を働かせて学習するための工夫や主体的・対話的で深い学びが実現するための工夫、生徒の学習意欲の向上につながる工夫等について言及がありました。

教育出版、教育芸術社ともに、それぞれ「Active!」「学びのコンパス」で示された手順で学習を進めることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現できるように工夫されていますが、「学びのコンパス」の頻度が高く、より丁寧に手順を示せていると思いました。

意見が出尽くしましたので、採決に入りたいと思います。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

教育出版 0 人、教育芸術社 5 人

○見浪教育長

教育芸術社に 5 名挙手されていますので採決の結果、音楽(一般)は、教育芸術社を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、教育芸術社を採択いたします。

続いて、音楽（器楽合奏）の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

音楽（器楽合奏）の推薦図書 1 社についての特色等を説明させていただきます。

教育芸術社でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「内容の程度」において特徴が見られます。例えば、それぞれの楽器の知識・技能を身につけながら、表現を工夫できるように展開されています。さらに、「アンサンブル」では、楽器の種類やリズム伴奏が工夫できるよう構成されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「教育芸術社」でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いします。

○永井委員

「内容の程度」について、両社ともリコーダーやギターなどの演奏の仕方や楽器の種類が紹介されていますが、教育芸術社の方がより丁寧に説明しており、分かりやすいと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「内容の程度」について、どちらの教科書もリコーダーの単元の箇所では、ページの端に運指の図を載せており、わかりやすいなと感じました。巻末ではギターのコード表が掲載されていますが、教育出版社は実際の手の写真で載っているのですからわかりやすくなっていると思いました。また、どちらの教科書も童謡からクラシック、ポピュラー音楽まで様々な練習曲を掲載していますが、楽譜については教育芸術社の方が見やすい感じがしました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「組織・配列」について、教育芸術社では、資質・能力の三つの柱のうち、「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」との関連も明示し、どのような音楽の力を身につけることができるかを確認することができるようになっている点がいいなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

同じく「組織・配列」について、私も教育芸術社は、音楽全体の学びを紹介されていて、明確に学びを把握しやすい紙面構成になっていると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「学び方の工夫」について、教育出版は例えば81ページ「音のスケッチ」の「どこかの街で不思議な旋律パート2」で、オプションパートがしっかりと描かれており、対話的で深い学びが実現するようになっています。教育芸術社は、71ページから95ページまでの取り上げられている楽曲が秀逸で、アンサンブルが充実しており、主体的・対話的で深い学びができるように工夫されています。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、教育芸術社では、巻頭の「音楽って何だろう？」というコーナーで著名人へのインタビュー記事を掲載し、学習意欲の向上に繋がることが期待できます。また、教育芸術社は器楽だけで39点のデジタ

ルコンテンツを用意しており、そちらも評価できます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、教育出版は4ページのストリート・ピアノに関する記述が秀逸です。時代の流れをちゃんと伝えています。31ページの「吹く楽器の仲間たち」では世界各国の笛が、56ページの「弾く楽器の仲間たち」では世界各国の弦楽器が、102ページの「打楽器」ではボンゴ、コンガ、カホンなどが写真で紹介されています。一方、教育芸術社は25ページのリコーダーの種類、27ページのギターの種類、45ページの三味線と三線、51ページの太鼓の種類、59ページの日本の伝統音楽の楽器編成、63ページから67ページの打楽器、クラベス、シェーカー、カウベル、アゴゴー、ボンゴ、コンガ、カスタネット、タンブリン、鈴、シンバル、小太鼓（スネアドラム）、大太鼓（バスドラム）、カホン、ジェンベ、ドラムセットなどの基本的な奏法を紹介しているのは秀逸です。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、全般についてご意見をいただきました。

まず、内容の程度については、演奏の仕方や楽器の種類の説明などについてのご意見をいただきました。

他にも生徒が学習の見通しを立てやすい内容となっているか、対話的で深い学びの実現に向けて工夫されているか、生徒の学習意欲の向上につながる工夫をしているかといった視点でのご意見がありました。両教科書ともに、各ページの上部に、「ねらい」「学習活動」が示されており、演奏のポイントに留意しながら学習を見通せる構成となっています。また、教育出版では「音のスケッチ」、教育芸術社では「学びのコンパス」「MyMelody」で、個人やグループで創意工夫しながら表現できるよう配慮されています。

先ほどの音楽（一般）でも発言させていただきましたが、音楽は人生を豊かにするものです。ぜひ歌うこと、楽器を演奏することを好きになってほしいと思います。そういったことからいうと、やはり生徒の興味関心を喚起し、抵抗感なく入っていきやすいものが良いと思います。そこで、教育芸術社の表紙は、生徒が楽しそうに楽器を弾いており、生徒が手に取りやすい、わくわくするものになっていると感じました。

では、意見が出尽くしましたので、採決に入りたいと思います。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

教育出版 0 人、教育芸術社 5 人

○見浪教育長

教育芸術社に5名挙手されていますので採決の結果、音楽(器楽合奏)は、教育芸術社を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、教育芸術社を採択いたします。

続いて、美術の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

美術3社のうち、推薦図書2社についての特色等を説明させていただきます。

まず光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、美術と世界や社会の関連性を考え、豊かな生活を創造することができるよう配慮されています。さらに、和紙のような加工がされており、紙質からも日本絵画のおもしろさを伝える工夫がなされています。

次に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「内容の程度」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、学年別に「美術との出会い」「学びの実感と深まり」「学びの探求と未来」をコンセプトにして生徒の発達段階に応じて学べる内容となっています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「光村図書」「日本文教出版」の2社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」「学び方の工夫」について、ご意見ををお願いします。

○原委員

「内容の程度」について、日本文教出版に比べて、全体的に光村図書の方が取り扱う写真や資料が大きく載せられており、見やすくなっていると思います。またその効果で、視覚的に興味を持ちやすくなっていると思われます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「内容の程度」について、光村図書では、表現の活動について「なぜ人間は美しく感じるのか?」、「美しい!を探してみよう」というコンセプトがわかりやすくていいと思います。1年時に基礎的な見方を解説し、2・3年時に「私たちに問いか

ける美術」として気づいていないものを気づかせ、考えさせる力があることを解説されているので、生徒の発達段階に考慮された構成になっていると思います。

さらに、光村図書1年の「うつくしいを探してみよう」では、2・3年時は「私たちに問いかける美術」というテーマで、どんな未来を作りたいのかという問いから始まっており、そのために問いかけたいことは何だろうと、深い学びが実現するよう工夫されています。

あと、観賞の活動については、1年の「世界の仮面と出会う」から2・3年の「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」まで、あえて世界からの共通性を学び、日本の絵画編は紙の種類を変化させ、質感の違いから特別観を感じさせるところが素晴らしい演出だと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「人権の取扱い」の観点で見たところ、どの出版社もユニバーサルデザインを意識しているのは伝わります。特に光村図書は紙面の構成が整えられており、意識をしてほしい点などの重要な点を「吹き出し」を使って、より見やすさに繋がっていると思います。コントラストが効いている色づかいも見やすさに繋がっている一因であると考えます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「人権の取扱い」について、どの出版社も教科書を開くことが楽しくなるような内容や絵画等の写真が配置されていました。ユニバーサルデザインにも配慮されているので、すべての生徒が美術を学ぶことができると思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「人権の取扱い」について、光村図書の2・3の75ページ「印象に残る映像表現」の「寛容ラップ」というCMは、自分と異なる立場や考え方の相手を認め、尊重しあうことの大切さを訴えているCMですが、人権尊重を適切に伝えていると思います。

あと、2・3の81ページに「ユニバーサルデザインの7原則」が解説されており、性別・年齢・障害・能力・言語を超えて公平に使用可能なデザインについて考えさせられるようになっているところがよいと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「学び方の工夫」の観点から、光村図書の「みんなの工夫」というコーナーでは、生徒の制作過程を紹介しており、リアリティがある内容となっています。何から手をつけてよいのかわからない生徒には非常に参考になるとともに、刺激を与えてくれるコンテンツと考えられます。

また、日本文教出版は、美術作品全体を見せるだけでなく、適宜拡大したりしながら、作品の特徴や迫力を伝えようとしています。美術作品の見方や考え方を伝えている点を評価したいです。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、「内容の程度」、「組織・配列」、「人権の取扱い」、「学び方の工夫」について、ご意見をいただきました。

「内容の程度」では、生徒の学習意欲の向上という観点から、表紙や写真、資料、見せ方の演出についてご意見をいただきました。「人権の取扱い」については、各社ともにユニバーサルデザインを意識した内容となっているとの意見や、人権尊重の観点からの題材の採用についての意見がありました。「学び方の工夫」では、「鑑賞」における作品の見せ方・考え方の工夫、生徒の「創作」を支援するための工夫に関するご意見をいただきました。

「内容の程度」について、開隆堂では、表紙が工夫されていてインパクトがあると感じました。また、学ぶ上での心構えである「なんでもいいからやってみる、そしてとにかく完成させる」ということを、「岡本太郎」や「新海監督」の言葉で表現されていて説得力を感じました。2・3年生の導入に人気アニメを採用している点は、生徒が抵抗感なく教科書に入れる工夫をしていると思いました。

「組織・配列」については、どの教科書ともに單元ごとに「ねらい」が示されており、それぞれ見開きの上部に3つの目標である「技能」「発想・思想・鑑賞」「学習」がアイコンで示されており、学習の見通しが立てやすい構成となっています。

「人権の扱い」に関しては、開隆堂が巻末で、光村図書が別冊で用具の使い方が記載されています。また、事故防止に関しては、3社とも「安全マーク」を掲載して、注意事項が記されています。日本文教出版については、2・3年上で介助犬や優先スペースのピクトグラムが取り扱われているところも評価できます。

それでは、「補充的な学習・発展的な学習」についてのご意見をお願いします。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、光村図書は別冊として「資料」があり、日本文教出版は教科書の巻末に「学びを支える資料」が掲載されており、教科書の内容に補填できるように配慮されていると思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点で見ると、どの出版社にも「資料」という紙面を用意していますが、光村図書には別冊の資料集が用意されています。美術

に取り組みやすいように、視覚的にとらえやすいような写真を多く掲載しており、内容も充実していると思います。

また、光村図書のデジタルコンテンツでは、中学3年間で必要となる技法を網羅しており、ホームページの情報によると全44本の動画を見ることができるとのことです。字幕表示や再生速度を選ぶことができるので、一人ひとりの学習ペースに合わせて活用できるという点を評価しています。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、光村図書の2・3の50ページ「漫画表現を楽しむ」というものがあり、世界に誇る日本の漫画文化を「文字の表現と効果線」、「表情」、「トーンの効果」で解説しているのが秀逸です。

また、日本文教出版1の5ページの松任谷由美さんの学びの言葉『曲は色彩、作詞はデッサン』という独自の世界観から生まれる独特な例えや、2・3下の5ページの所ジョージさんの『遊びで育つ感性が人生を豊かにする』といった独自の世界観を表現する言葉に重みがあって、「美術とはなにか？芸術とはなにか？」という、所さんの笑顔と何気ない軽い言い回しから人生訓を学べるところがあると思います。

あと、2・3下の57ページの日本の世界文化遺産20か所が表記されているところがよいと思いました。

最後に、日本文教出版2・3上の62ページ『日本の伝統色』で、日本の色名について触れていますが、自然界に存在するすべて色に名前を付けようとした世界で唯一の民族と言われている日本人の先人について学ぶことができますので、素晴らしいと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、美術史年表を見比べますと、光村図書も日本文教出版もそれぞれの時代に代表される作品を取り上げており、わかりやすくなっています。光村図書においては、世界の美術史の遍歴欄がより詳細になっており、また折込みを広げると一覧で見ることができるのでわかりやすくなっていると感じます。

また、伝統色図鑑では、光村図書においては資料集の巻末で世界の伝統色と比較して紹介しており、細かい部分がわかりやすくなっていると思います。色の効果と配色についてもわかりやすく説明されています。

○見浪教育長

ありがとうございました。各委員から、補充的な学習・発展的な学習について、ご意見をいただきました。

主な意見としましては、光村図書の別冊の内容やデジタルコンテンツが充実して

いるとの意見が複数の委員からありました。著名人のメッセージにより、生徒の学ぶ意欲を引き出す工夫がされているとの意見がありました。

「補充的な学習・発展的な学習」では、開隆堂の「学びの資料」の中の「展覧会を作る」や光村図書の「みんなの工夫」、日本文教出版の「学びを支える資料」の中で、グループでの表現活動の実践が掲載されており、学習した内容を対話でさらに深めるよう工夫されていると感じました。

また、各社ともに、著作権や肖像権についての注意事項について記載しており、注意マークが示されていました。やはり美術分野についても、生徒が興味関心を示し、美術を鑑賞してみよう、創作活動をしてみようとさせる教科書が良いと思います。

意見が出尽くしましたので、採決に入りたいと思います。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

開隆堂 0 人、光村図書 5 人、日本文教出版 0 人

○見浪教育長

光村図書に 5 名挙手されていますので採決の結果、美術は、光村図書を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、光村図書を採択いたします。

続いて、保健体育の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

保健体育 4 社のうち、推薦図書 2 社についての特色等を説明させていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、これまでの経験や学習をもとに「見つける」の活動を行った後に「学習課題」を明示し、「課題の解決」「活用する」「広げる」の学習過程の中で、事例から自分ごととして学習に取り組むことができるよう工夫されています。

最後に学研でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「学習を生かす」では学習した内容を活用して、事例を通してグループ内で意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中

で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「学研」の2社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○原委員

「組織・配列」について、文字と写真や図の配置、單元ごとの課題や目標事項が色使いも含めていちばん見やすくわかりやすいのは、東京書籍だと思います。また各章ごとに章末資料をたくさん掲載しており、用語の羅列だけではなく、写真や図、表を用いてわかりやすく配置していることによって学習をさらに深めることができると感じました。章の初めにその分野で働く方を紹介しており、保健体育分野で関わる方の職業をイメージしやすくなっています。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」について、東京書籍の目次は、見開きページで右半分は巻頭・巻末資料、読み物、章末資料、巻末スキルブックの内容が一覧で表記されているため、はじめてテキストを開いたときのワクワク感が漂ってくるのでいいと思います。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「組織・配列」について、東京書籍は表紙に「イキルをマナブ」というサブタイトルを掲載しています。保健体育を学ぶ意味を端的に表していて、良いと思います。

また、各社様々なページ構成をしています。見開き2ページを1単位時間として学習することを基本としているのではと感じました。あと、東京書籍はページ構成がシンプルで、本文と資料の区別がフォントサイズも含めて明確であり、紙面のカラーバランスが良く、見やすさに繋がっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「組織・配列」について、同じく見開き2ページで1単位時間として学習することを基本とし、本文や写真、挿絵、図表などが効果的に配列されていると感じました。目次の順序として、学研は体育編の次に保健編、一方、東京書籍は保健編の次に体育編とカテゴリーの並べ方は異なりますが、その中の単元の順序は体系的にまとめられているので効果的な指導が可能であると考えます。特に東京書籍は、教科書紙面の構成がすっきりとしていて、見やすいページになっていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「人権の取扱い」について、東京書籍は人権尊重の観点から、「性の多様性」、特に「性的指向」、「性自認」、「性表現」、「体の性」の関係性について表記されています。また、色彩デザインに関して、色覚問題研究を取り入れ、配慮されている点がすばらしいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「組織・配列」では、文字や写真、図の配置の見やすさや、巻頭巻末資料を含めた内容の充実、全体の構成について、ご意見をいただきました。

「人権の取扱い」では、カラーユニバーサルデザインが取り入れられている点や、内容として性の多様性の記述がある等の意見が出されました。

「内容の程度」に関しては、東京書籍、大修館書店、学研において、章の扉で小學校で学んだ内容を記載しており、小中の接続を意識した工夫がされていると思いました。この中で、東京書籍は、2次元コードで動画を見ることができます。また、学研では高校で学ぶことも記載して、小中高のつながりを意識した内容となっています。

「組織・配列」に関しては、各社ともに、章の冒頭で大きな課題を示すとともに、各節や1時間単位ごとに学習課題を示すことで、生徒の学習の見通しを立てることができる構成となっています。

「人権の取扱い」では、先ほど委員の発言にあった東京書籍に加えて、大修館書店においても、「特集資料」で「性についての固定的な考え方に気づこう」で詳述しています。また、学研では、「実習」として自分の気持ちをうまく伝える練習を入れるとともに、「もっと広がる、深める」でいじめについて詳述しています。

それでは次に、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をお願いします。

○富山委員

「学び方の工夫」について、東京書籍の「感染症の歴史」と「免疫と予防接種」はコンパクトにまとめられていて秀逸です。また、大修館書店は、「感染症と病原体」で新型コロナウイルス感染症について表記があります。141ページの主な感染経路、145ページのコラムなどは秀逸だと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、どの出版社も、巻末に資料の掲載をしています。なかでも、東京書籍は「巻末スキルブック」という健康や安全に関する20のスキルをまとめた資料があります。「Dマークコンテンツ」という動画も併

用し、分かりやすく伝えようする意図が汲み取れます。内容に関しても、表紙にもある「イキルをマナブ」上で、実用の高い項目を取り上げている点が良いです。

少し逸れますが、社会の事象や問題の低年齢化が原因だと思うのですけれども、「教えた方がよいこと」「知っておいた方がよいこと」が非常に多く、生徒も含めた教育関係者は大変と思うと同時に、社会が変化してきていることを知る上で、保護者も読んだ方がよいのではと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、東京書籍においては「巻末スキルブック」が掲載されており、実習に役立つスキルがまとめられていて学習しやすくなっています。普段から注意しておきたい内容もたくさん掲載されており、また2次元コードを読み取ることで詳しい実践内容を見ることができ、いいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、がん教育は、がん対策基本法のもと第3期がん対策推進基本計画により、学校で実施される大切な学びの1つです。2年生では、がんの予防を解説しています。東京書籍では、「がんを防ぐ12か条」を新旧比較により、時代の変化を感じることが出来るデータが掲載されており、さらに、「がんについてもっと知ろう」という発展ページでは、がんの治療について探究するページやがんの正しい情報の集め方についてポイントを挙げているところが、いいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、男女の生殖機能の違いから、一生のうちで作られる精子の数と卵子の数の違いについて認識して、生命の誕生の神秘さをもっと理解してほしいと思いながら各教科書を見ていますと、東京書籍の35ページの資料8で、精液1mLには約1億個の精子が含まれるという表記があり、学研の50ページ下部の「情報サプリ」では、「精子は一生のうちでは約1兆5千億つくられます」という表記が、また、その上部にある「カウンセリングルーム」では、「1日に数千万もの精子が作られる」という表記があって、よいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」に関するご意見をいただきました。

「学び方の工夫」に関して、「感染症」に関する記述についてご意見がありました。

また、「補充的な学習・発展的な学習」では、巻末資料の充実度について、実用性等の観点も含め、ご意見があったかと思います。その他、がん教育として、がん予防について解説していることや各社の生殖機能の記述について意見がありました。

「学びの工夫」に関しては、東京書籍では「活用する」の中で学習内容について、生活の中での活用方法を話し合い、そこから思考を発展させ、対話的で深い学びの実現に工夫しています。

同様に、大日本図書では「話し合ってみよう」「活用して深めよう」、大修館書店では、「章のまとめ」の「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」で、学研では、「エクササイズ」「学びを生かす」の学習過程の中で、対話を促すとともに、自分ごととして考え、深い学びに導く構成となっています。

「補充的な学習・発展的な学習」では、東京書籍において、「発展」として学んだ内容さらに深く掘り下げる課題が用意されています。大日本図書では「学びを生かそう」、学研では「探究しようよ」で学習した内容をさらに発展させる内容が記載されており、各社ともに工夫されていると感じました。

以上、意見が出尽くしたので、採決に移ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 5 人、大日本図書 0 人、大修館書店 0 人、学研 0 人

○見浪教育長

東京書籍に 5 名挙手されていますので採決の結果、保健体育は、東京書籍を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、東京書籍を採択いたします。

続いて、技術家庭（技術分野）の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

技術家庭（技術分野）3 社のうち、推薦図書 2 社についての特色等を説明させていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、効果的な指導が行われるよう、見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、本文・写真・挿絵・図・表・二次元コードなどが適切に配置されています。また、他教科等や小学校での学習と関連している箇所を随所にマークで示しています。さらにページ下部の「技術の工夫」では、用語解説や技術の工夫が紹介されています。

次に教育図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、本冊と別冊「スキルアシスト」の 2 冊

で構成されています。さらに、本冊は効果的な指導が行えるよう、見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、本文・写真・挿絵・図・表・二次元コードなどが適切に配置されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「教育図書」の2社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○足立委員

「組織・配列」の観点から、各社、見開き2ページで学習することを基本としていますが、東京書籍はページ構成がシンプルで、本文と資料の区別がフォントサイズも含めて明確であり、また、紙面のカラーバランスが良く、見やすさに繋がっていると思います。

教育図書は、本冊と別冊「スキルアシスト」の2冊構成になっています。別冊は加工法や実習中の作業確認をしやすい点はいいと思います。ただ、別冊になっていることでの利便性がありますが、紛失や忘れ物をする可能性もあると思いますので、その点は注意すべきだと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」について、表紙、挿絵ともに、教育図書の方が、中学生に興味を持たせやすいイラストとなっていると感じました。登場人物においては、東京書籍はキャラクターと生徒、教育図書は先生と生徒となっていますが、どちらも生徒にヒントとなり、考え方を導く役目となっていて良いと思います。

また、教育図書には巻末に設計・計画シートがつけられており、授業を進めるうえで活用しやすいのではと思います。また、別冊「スキルアシスト」については、作業を進めながら詳細を調べられ、辞書的な役割があるので良いと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「人権の取扱い」について、技術では机上の学習だけでなく、実習も含まれています。実習を安全に実施することは学びの1つであると思いますが、東京書籍では、

「作業を楽しく安全に進めよう」などといったページを設けており、単元では例えば木工加工の際の注意点について、安全・衛生に関する詳細なコメントも記載されています。さらに、万が一の傷の対処方法も書かれており、その点で好ましいと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「人権の取扱い」について、各社とも人権への配慮については適切に取り扱われていると思いますし、生徒の男女イラストもほぼ1対1で掲載されており、素晴らしいと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。「組織・配列」、「人権の取扱い」に関するご意見をいただきました。「組織・配列」の観点では、ページの構成やフォント、カラーバランス等を踏まえた見やすさや中学生にとって興味関心がもてるようになっているか等の意見をいただきました。

また、教育図書の別冊「スキルアシスト」については、複数の委員からご意見をいただきました。「人権の取扱い」の観点では、安全に実習を進めるための記述等について意見をいただきました。

「内容の程度」の観点では、東京書籍の「TEC Lab」、教育図書の「作ってみよう」、開隆堂の「実習例」では、製作の工程が丁寧に写真やイラストで説明されており、生徒が理解しやすいよう工夫されていると感じました。「組織・配列」では、東京書籍、開隆堂で他教科との関連がマークで示されており、教科横断の視点を取り入れられています。各社とも、単元毎に「目標」と「ふりかえり」が記載されており、章末に学習した内容のまとめがあることで、学習の見通しを立てやすい構成となっています。その中で、東京書籍は各単元の学習内容への興味関心を喚起するため、冒頭の「レッツスタート」で、身近なものから学習内容を想像させる工夫をしていると感じました。

それでは、次に「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見ををお願いします。

○富山委員

「学び方の工夫」について、東京書籍では「技術のとびら」、「TEC Lab」、「問題解決例」、「学習のまとめ」という順でジャンル別に進めているので、問題解決の道筋が見える構成になっており、いいと思いました。

また、「補充的な学習・発展的な学習」について、全出版社において、農業関係がきちんと記載されており、どのような観点でまとめているのかと思っていたところ、東京書籍は135ページの「すごいぞ！技術」というコラムで、農業と福祉を連携させた「農福連携」という障害のある方たちも農業分野で活躍できるという話を載せていたり、264ページでは「AI（人工知能）と私たちの生活」「メタバース」「ボディシェアリング」「データサイエンス」といったこともきちんと紹介されてい

るんですよね。おそらく、将来このような内容が教科書の中でほとんど占めるのではないのかなと思っていますし、それら内容をきちんと最後で押さえているところが、秀逸だなと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、どの出版社も、各編または内容の最後に「学習のまとめ」が用意してあります。東京書籍はその他にも、「未来のTechnology」と題した「これからの技術」を各自に考えさせる紙面を用意していたり、「すごいぞ！技術」と題した社会で検討されている技術、実用化されている技術の紹介をしているなど、科学技術への関心を高める工夫がみられます。また、どの出版社も、高校情報に繋がるプログラミング言語を紹介している点を注目しました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○永井委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、中学校におけるプログラミング教育は、2021年から学習指導要領に技術・家庭科に新しい項目を追加する形で必修化されており、プログラミングだけでなく、情報セキュリティや情報モラルも併せて学習することになりました。そのため教科書の内容は情報に関して多岐にわたっていますが、例えば東京書籍の198ページ以降では、未来の社会に繋がる学びになっていてよいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、東京書籍、教育図書ともに編末資料としてそれぞれの分野の匠と呼ばれる人を乗せており、その体験談やコメントを読むことにより、中学生の将来の夢や希望を具体的にイメージさせやすいのではないかと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」に関するご意見をいただきました。「学び方の工夫」に関して、問題解決の道筋が見える構成について、ご意見をいただきました。「補充的な学習・発展的な学習」の観点では、「学習のまとめ」を含む編末資料の各社の工夫についてのご意見をいただきました。

また、プログラミング言語の紹介や、情報セキュリティ、情報モラルの記載につ

いての意見もありました。あと、東京書籍の「未来を創る」「技術分野の学習を終えて」の項目、教育図書ではE編「夢をかなえる技術」、開隆堂では「技術分野の出口」が設定されており、学んだことを社会に生かす事例が掲載されることで、生徒の将来への夢や希望を育む工夫がされていると感じました。

それでは意見も出尽くしましたので、採決に入ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 4 人、教育図書 1 人、開隆堂 0 人

○見浪教育長

東京書籍に 4 名挙手されていますので採決の結果、技家庭(技術分野)は、東京書籍を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、東京書籍を採択いたします。

続いて、技術家庭(家庭分野)の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

技術家庭(家庭分野) 3 社のうち、推薦図書 2 社についての特色等を説明させていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」「人権の取扱い」において特徴が見られます。例えば、調理実習の手順や注意点などが見やすく、子どもたちにとってわかりやすいものとなっています。

次に教育図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、どの單元でも、「見つめてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」などの流れが示されており、深い学びが実現されるよう工夫されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「東京書籍」「教育図書」の 2 社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いします。整理のため、まず観点のうち「内容の程度」「組織・配列」「人権の取扱い」について、ご意見をお願いします。

○永井委員

「組織・配列」について、出版社によって目次の構成が異なっており、東京書籍と開隆堂は、衣食住をそれぞれ分けて「食生活」「衣生活」「住生活」の順に明記されていますが、教育図書では、「衣食住の生活」とまとめています。個人的には、分けて記載した方がわかりやすいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「組織・配列」について、東京書籍はページ構成がシンプルで、本文と資料の区別がフォントサイズも含めて明確に分けられており、また紙面のカラーバランスが良く、見やすさに繋がっていると感じます。

また、東京書籍は巻頭巻末にメッセージを記載されています。家庭科を学ぶことは生活力を養うことであることを伝えていて、良い構成だと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「組織・配列」について、東京書籍は、「W a r m u p 1～4」で「教科書の構成と使い方」、「デジタルコンテンツを使ってみよう」、「家庭分野の学習の進め方」、「実習を楽しく安全に進めよう」と導入部がしっかりされています。案内役のキャラクターの「ギカット」、学習の深め役のキャラクターである「ミカタ」が定期的にリズムカルに登場してきて、わかりやすく配列されていると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「人権の取扱い」について、教育図書の69ページ「センパイに聞こう！」のコーナーで男性の保育士さんを取り上げており、女性のイメージが強い職業において柔軟な考え方ができるようになっているなど感じました。このコーナーでは写真や文章をうまくつかって詳細に紹介しているので、生徒たちの興味を持たせやすくなっていると思いました。

また、東京書籍の270ページでは、自分らしく生きるための制服も紹介しており、柔軟な思考ができるようになっていていいなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「組織・配列」、「人権の取扱い」に関するご意見をいただきました。「組織・配列」の観点では、章・編の全体構成やページ構成における各社の相違点や見やすさ・わかりやすさについて、ご意見がありました。教科書巻頭巻末の記述について、生徒がスムーズに意欲をもって学習に取り組むための工夫がなされているとの意見もありました。

「人権の取扱い」の観点では、男性の保育士のメッセージや、自分らしく生きるための制服を紹介するなどの配慮がされているとのご意見がありました。

「内容の程度」の観点では、各社ともにリンクマークを付けて小学校で学んだことを記載することで、小中の接続を意識しています。東京書籍、教育図書では、最初の単元で人気アニメのキャラクターを用いるなど、生徒が抵抗感なく学習に入れるよう工夫しています。

「組織・配列」の観点では、各社とも、単元毎に「目標」と「ふりかえり」が記載されており、章末に学習した内容のまとめがあることで、学習の見通しを立てやすい構成となっています。その中で、東京書籍は各単元の学習内容への興味関心を喚起するため、冒頭の「レッツスタート」で身近なものから学習内容を想像させる工夫をしていると感じました。教育図書では、単元の学習内容を考えるために、「見つけてみよう」で小学校の学習を思い出すよう働きかけており、抵抗感なく学習に入れるよう工夫しています。

また、各社ともに、章のまとめでは知識・技能の確認と思考力・判断力・表現力の醸成、主体的に取り組む態度を育成する設問となっていますが、知識・技能の振り返りという点では、東京書籍が「大切な用語の確認」を掲載しており、網羅的に振り返りができる工夫をしていると感じました。一方で、教育図書では、単元の中で「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」などが頻繁に掲載されており、その都度、調べ学習や対話を行いながら理解を深めていく工夫をしていると思いました。

では、次に「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をお願いします。

○永井委員

「学び方の工夫」について、将来の生活習慣病予防の1つとして食生活は重要だと考えています。教科書には調理の際の注意点が記載されているので、調理実習に役に立つものとなっています。東京書籍では、調理の参考例などさまざまなレシピも掲載されているので、生徒の調理への興味関心が高くなる紙面構成となっていると思いました。ただ、できれば塩分について記載があれば、更にいいのではないかと思います。塩分の取りすぎは、循環器系疾患やがんへの影響が示唆されており、若いうちから塩分摂取の意識も必要だと考えていますので、その点も加味していただきたいです。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「学び方の工夫」について、言語活動についての記述は、各社とも「家庭・地域活動の分野」にて触れていますが、教育図書は「言いにくいことを伝えるコツ」と題して、「サンドイッチ話法」「クッション言葉」の具体的なテクニックを掲載されており、生徒にとっても非常に参考になると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」について、6つの食品群の紹介においては、教育図書も東京書籍も折込を使って、一覧で見やすくなっています。また、写真も原寸大を用いてイメージしやすく、食品の概要欄においてもどちらも写真を用いてわかりやすくまとまっていると思います。巻末においては、教育図書では編と章ごとにわけて課題解決へむけての流れを書かれているので、整理しやすいのではないかと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、各社とも各章末に振り返りや整理ができるようになっていますが、教育図書では3つの観点「確認しよう」「考えてみよう」「自分の言葉でまとめよう」という項目で、それぞれ「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」を確認できる点が、特にいいと感じました。

また、各社、デジタルコンテンツの数も多く、内容も充実していると感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、東京書籍の64ページ「まな板の汚れの変化」では、「熱湯をかけるとタンパク質は完全に落ちないけれど、菌はいなくなる」といった食中毒予防に関する注意点について、付着したタンパク質やシャーレで菌を培養した写真で視覚的に訴えているのは秀逸だと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」に関するご意見をいただきました。

「学び方の工夫」に関して、調理実習における生活習慣病予防や食中毒予防の観点や、コミュニケーション力を高める工夫等の観点から意見がありました。また、巻末や章末が、生徒の振り返りや学習内容の整理の観点から工夫されているとの意見がありました。

「学びの工夫」の観点では、東京書籍で、「編の扉」に「私の知りたいこと、できるようになりたいこと」（課題設定）を考えて記載する形式になっており、自ら課題設定をすることで、学習の習得に対する意欲を喚起する工夫がされていると感じました。また、家庭分野のガイダンスの「やってみよう」では、これからの家庭科学習をすすめるにあたって、様々な生活の変化を現在と1年後をレーダーチャートで表す構成となっており、生徒の学習への意欲を喚起する工夫がみられました。教育出版の「考えてみよう」や開隆堂の「やってみよう」では、ロールプレイングを通じて学習内容の理解を深める構成となっており、ロールプレイングの手順について

も丁寧に説明しています。

「補充的な学習・発展的な学習」の観点では、各社ともに、最終章で「生活の課題と実践」が登載されており、問題の発見から計画、実践、評価、改善を検討する内容となっています。

それでは意見も出尽くしましたので採決に入ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 3 人、教育図書 2 人、開隆堂 0 人

○見浪教育長

東京書籍に 3 名挙手されていますので採決の結果、技家庭(家庭分野)は、東京書籍を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、東京書籍を採択いたします。

続いて、英語の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

英語 6 社のうち、推薦図書 4 社についての特色等を説明させていただきます。

まず開隆堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、生徒が見通しを持って学習が進められるよう構成されています。「とびら→Scenes→Part→Review(Review & Retell)→Action」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現がどんな場面や目的で使用されるのか理解しやすくなっています。

次に三省堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、言語の使用場面は生徒の身近な場面が設定されており、「Project」や「Small Talk」の部分ではより具体的に場面設定されています。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、生徒が見通しを持って学習が進められるよう構成されています。「とびら→Part→Task→Grammar」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現がどんな場面や目的で使用されるのか理解しやすくなっています。

最後に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、言語の働きについて、「Daily Life」や「You Can Do It!」の中で説明、発表、ディスカッション等、様々に取り扱われています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが、「開隆堂」「三省堂」「教育出版」「光村図書」の4社でした。選定理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」の資料をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち「内容の程度」「組織・配列」について、ご意見ををお願いします。

○永井委員

「内容の程度」について、各社とも学年進行に合わせて学ぶテーマが変化しています。1年生では身近なテーマ、2年生や3年生では社会的なテーマを取り扱っており、3年生の最後には将来に向かってをテーマにしたものもあり、英語はこれから生きていく上で必要だと予感される紙面構成になっています。また、三省堂と光村図書の「目次（Contents）」は、学びを把握しやすい構成になっていると思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「内容の程度」について、各社とも生徒の発達段階を考慮した内容となっています。三省堂には、3年生の教科書の6ページに「長い英語を読むコツ」という内容が載っていきまして、生徒たちが初めて長い英語の文章を見たときにはびっくりすると思うのですが、教科書には「英文を読み始める前に、タイトルや写真・イラストを手がかりにして内容を推測すると、英文が読みやすくなります。」と書いてあり、私も仕事の関係でよく論文などを読みますが、その通りだと思いました。そのような内容をきちんと巻頭に書いていることは、素晴らしいですし評価したいなと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」について、どの教科書においても、登場人物や絵のタッチが柔らかく、子どもたちが見やすく関心を持ちやすいと内容になっていると思います。

また、世界の様子や食べ物など写真も適切に使われており、英語を通して世界の様子に興味を持つことができると感じました。光村図書は教科書がほかに比べて小さいですが、内容はすっきりとまとめられており、見やすく感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「組織・配列」について、三省堂、開隆堂、啓林館、東京書籍はA4サイズ、光村図書、教育出版は縦がA4サイズより3cmほど小さいサイズとなっています。各社とも小さくしている意図はあると思いますし、決して小さい方が見にくいということではありませんが、A4サイズタイプの方がゆとりをもってページ構成できている印象を受けました。

また、どの出版社も学生キャラクターを中心にストーリー仕立ての単元構成になっており、会話ベースのため、内容がイメージしやすいと思いました。三省堂はサイドストーリーを4コマ漫画で表現しており、表現にバリエーションを持たせていて、飽きがこないような工夫がみられました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「内容の程度」、「組織・配列」に関するご意見をいただきました。「内容の程度」の観点では、学年進行に合わせて学ぶテーマを変化させており、英語がこれから生きていく上で必要と予感させる紙面構成となっているとのことご意見がありました。「組織・配列」の観点では、出版社によってサイズが異なるが、A4サイズがゆとりをもってページ構成できるとの意見の一方で、光村図書はサイズが小さいが内容がすっきりまとめられており見やすいとの意見がありました。

また、各社とも、キャラクター中心のストーリー仕立ての単元構成で内容がイメージしやすい、その中で、三省堂は飽きがこない工夫がされているとの意見がありました。

「組織・配列」に関しては、各委員の意見と同じように、A4サイズの大判の方が見やすいと思いますが、光村図書については、色彩を淡い落ち着いた色にするとともに、写真よりイラストを多く使用することで、窮屈さを感じない配置になっているなと思いました。

また、各社ともに単元の最初に学習課題を提示して、単元の最後に達成度を振り返る構成にすることで、生徒が学習の見通しを立てやすいよう工夫しており、その中でも、三省堂、開隆堂、光村図書では実際の活動を目標として設定しており、生徒の学習に向かう意欲を喚起する工夫が見られました。

あと、各社ともに本編に入る前に、小学校で学習した内容を復習する単元を設定しており、英語学習に抵抗感なく入れるよう、小中の接続を意識した構成としていて、その中でも三省堂では、「My Dictionary」の吹き出しをつけて小学校で学習した単語を参照することができるとともに、新出単語の横に若葉マークをつけて確認できるように工夫しているところがいいと思いました。

それでは次に、「人権の取扱い」、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」についてご意見をお願いします。

○永井委員

「人権の取扱い」について、各教科書ともに国際理解を深め、国際協調の精神を養うことに配慮しています。例えば、教科書に登場する人物は、日本人の生徒だけでなく、海外から転校してきた生徒も交えてストーリーを展開させています。英語を学ぶと共に国際性・多様性を理解することも学びの重要性だと考えます。

その中でも三省堂は、教科書のトップページに登場人物のカルチャーの写真が掲載されており、登場人物の文化的背景も理解しやすく、よいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」について、光村図書では帯教材として「その場でスピーキング」という教材がついており、自己紹介から自分の考えを発表するための参考教材となっていました。会話を取り込んだ授業を進めるうえで参考にしやすいなと感じました。

また、光村図書は全体的に会話文が多く取り込まれており、リスニングとリーディングが学習しやすいと感じました。長文も多く、読解力を深めていくうえでも良いと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「補充的な学習・発展的な学習」について、各社デジタルコンテンツを用意されていますが、なかでも三省堂は10コンテンツ約600の動画があり、かなり充実している印象を受けました。個人学習への対応度も高いのではないかと思います。コンテンツによっては動画のスピードを変えることができるようで、個人の習得度に合わせて利用できる点が良いです。光村図書も約750の動画を用意しているとのことで、こちらも十分な用意ができていると思います。

また、光村図書の1年生の教科書には、別冊的な「その場でスピーキング Let's talk!」というスピーキング教材があり、145ページからの「英語の学び方ガイド」では4技能の学び方を紹介していて、英語の学び方が分からない生徒には、とても役に立つ情報だと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「補充的な学習・発展的な学習」の観点で、三省堂の1年の33ページ「単語の意味の調べ方」では、ネットで何でも簡単に調べることができる現代において、辞書での意味の調べ方が載せられておりますが、それは大切なことであり、素晴らしいと思いました。

また、光村図書は1年の144ページと145ページに間の「その場でスピーキング」などで主体的・対話的で深い学びが実現するように工夫されているところがいいと思いました。

最後になりますが、三省堂の3年の巻末資料6において、「ハゲワシと少女」の1枚の写真とそれに関する話が載っています。スーダンの飢饉を表している写真ですが、当時世界的に大きな議論が起こっていましたし、有名な賞を取った写真でもあるので、私も昔に見た記憶がありまして、ここでは全て英語で書かれているのですが、素晴らしい内容を載せられているなと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。「人権の取扱い」、「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」に関する意見をいただきました。

「人権の取扱い」に関しては、各社とも国際理解を深め、国際協調の精神を養うことに配慮しているとの意見でした。

「学び方の工夫」に関して、光村図書には帯教材「その場でスピーキング」が付録しており、会話を取り込んだ授業を進める上で参考にしやすいとのこと意見が複数ありました。併せて、全体的に会話文が多く、リスニングとリーディングの学習がしやすいとの意見がありました。三省堂、光村図書ともに、動画を含むデジタルコンテンツが充実しているとの意見がありました。その中で、三省堂のコンテンツは、動画のスピードも変えることができ、個人の習熟度に合わせて利用できる点が良いとのことでした。

「人権の取扱い」の観点では、東京書籍の「ダイバーシティメモ」が随所に貼付されており、多様性についての気付きを促す工夫がされています。教育出版では、目次にSDGsのマークが添付されており、生徒がSDGsを意識するよう工夫されています。また、各社ともに、「世界平和」や「地球環境」「国際理解」なども取り上げています。

「学びの工夫」の観点では、光村図書は、各単元の冒頭の見開きのページで、4技能についての目標が示されており、単元の最後の「Goal」で到達度を確認するとともに、「CAN-DO List」でチェックする構成となっており、将来の4技能の習得を目指す上で工夫されていると感じました。

三省堂の「Take Action!」では、実際の場面を設定して、学習した内容を生かしてコミュニケーションの実践をする内容となっており、生きた英語の習得に工夫を凝らしていると思います。

それでは意見も出尽くしましたので、採決に入ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 0 人、開隆堂 0 人、三省堂 4 人、
教育出版 0 人、光村図書 1 人、啓林館 0 人、

○見浪教育長

三省堂に 4 名挙手されていますので採決の結果、英語は、三省堂を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、三省堂を採択いたします。

続いて、道徳の教科用図書採択を行います。選定委員長より、選定委員会より推薦された図書について簡潔に説明をお願いします。

○大山選定委員長

道徳7社のうち、推薦図書3社についての特色等を説明させていただきます。

まずは光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、二次元コードにより朗読音声や資料、動画などを掲載することで個別最適な学びを充実させるとともに、「やってみよう」などにおいて協働的な学びが充実するように工夫されています。

次に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、別冊でワークシートが設けられており、学習を振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されています。

最後にあかつき教育図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、1年間の「学習の記録」などにより、学習を振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されています。

以上です。

○見浪教育長

ただいま、選定委員会からの報告がありました。各社の教科書ともに、本市で使用する教科書として示された採択の基準を満たしているということですが、その中で、選定委員会として選定の候補に挙げたのが「光村図書」「日本文教出版」「あかつき教育図書」の3社でした。選定の理由については、「教科用図書選定委員会答申結果」をご覧ください。

それでは、各委員の皆さんのご発言をお願いしますが、整理のため、まずは観点のうち、「内容の程度」「組織・配列」「人権の尊重」に関するご意見をお願いします。

○永井委員

「内容の程度」について、各出版社ともに「いじめ」や「情報モラル」、「命の大切さ」など教育現場や一般社会で問題となっている項目について、すべての学年で取り上げて学ぶという構成になっています。

さらに、「安全・防災」や「キャリア」といったさまざまな社会的課題に対しても、自分自身や他者との向き合い方、解決に向けて多方面から考える取り組み方などについても学習できるようになっています。特に日本文教出版では、「いじめと向き合う」というテーマを多く扱っており、「いじめ」に対して強く取り組んでいることが印象に残りました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「内容の程度」について、各社とも、「いじめ」「情報モラル」を取り上げ、未然防止に努める配慮がされていると思いました。特に、日本文教出版では「いじめ」について、1年生では3か所、2、3年生では2か所と年間で複数配置されており、授業進行的に長期休み明けの時期を選んでいるような配置となっている気がしてお

りまして、いじめの未然防止に努めるという配慮がなされているなと感じました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「内容の程度」について、各社とも、生徒の発達段階を考慮した内容になっており、いじめに関すること工夫されていると感じました。また、日本文教出版では、「いじめと向き合う」というタイトルで①から③まで用意されており、根本的にきちんと伝えているところが秀逸だと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「組織・配列」について、あかつき教育図書、光村図書、日本文教出版を比べてみると、日本文教出版については「いじめ」に関連する単元が他の出版社に比べて多く盛り込まれており、道徳教育において力を入れていると感じました。

また、「さかなのなみだ」という題材について、あかつき教育図書、光村図書、日本文教出版において取り上げられていますが、日本文教出版は題名をひらがなで表記しており、作者の顔写真も掲載し、挿絵についてもやわらかい雰囲気、同じ題材を取り上げるにしても内容にひきこまれる感じが、日本文教出版に対して強く感じました。

また、表紙についてはどの教科書もさわやかであると感じました。表紙にサブタイトルがあるのも良いと思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。「内容の程度」、「組織・配列」に関するご意見をいただきました。「内容の程度」の観点では、各社ともに「いじめ」「情報モラル」「生命の大切さ」など、教育現場や一般社会で問題となっている項目を取り上げている点を評価する意見が、すべての委員からありました。

私は、生徒たちが、「他者の違いを理解し・認め合い、他者を尊重する」、「何よりも自分認め・大切にする」、そして「社会のつながりの中で生きていく」、そのために大切なことを道徳で学んでほしいと思っています。そうした観点では、どの教科書ともテーマを厳選して掲載し、生徒が教材を読み、グループ討議やロールプレイングなどを通じて自身の考えを深めることができる工夫をいただいていることに敬意を表したいと思います。

その中で、やはり選定にあたっては、今の中学生にとって重要な課題である「いじめ」「いのち」という観点を大切にしたいと思います。

各出版社において「いじめ」を題材に取り上げ、複数の単元をユニット化してまとめて学習することで、より深い学びを実現する工夫をいただいていると思っています。その中で、日本文教出版は1年で3つのユニット、2年、3年で2つのユニットを構成しており、最も充実していると感じました。併せて、「違いを認め合

う」という観点も重要であると思っていまして、その点では東京書籍の「私のふつうと、あなたのふつう」とその後の「プラス」の「思いこみに気づく」でのアンコンシャス・バイアスに関する内容や、教育出版の「ちがいについて考えよう」と「ワーク」は、生徒たちが考える工夫がされていて、いいなと感じました。

また、委員からの意見にもありましたが、中学生にとってSNSの利用も大きな問題となっております。SNSを通じて、犯罪被害に合う青少年の増加が懸念されています。その点で、光村図書の「節度のある端末の使い方を考えよう」や東京書籍の「中学生のインターネット利用状況」データの掲載、日本文教出版の「法の役割 使っても大丈夫？」などは、現在の中学生にとって大切なテーマであり、1年生で学ぶ重要なテーマであると考えています。

それでは次に「学び方の工夫」、「補充的な学習・発展的な学習」について、ご意見をお願いします。

○永井委員

「学びの工夫」について、教科書の巻末に「学習の記録」や「まなびの記録」、「道徳ノート」と称する小冊子がそれぞれ入っており、道徳で学んだことについて整理して、記録できる仕組みが好ましいと思います。特に日本文教出版の「道徳ノート」では、最後のページに先生や保護者の方へのメッセージも書かれており、このノートを通じて生徒の学びの過程を捉えることも出来ます。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○足立委員

「学び方の工夫」について、日本文教出版には、別冊の「道徳ノート」が用意されており、学習を振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりできるように工夫されていると感じました。また、漫画教材を採用しており、生徒にとって理解しやすく、議論したくなる教材を掲載している印象がありました。そして、全ての教材とコラムにデジタルコンテンツを用意しており、授業方法に合わせて活用できる点がいいと思いました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○富山委員

「学び方の工夫」について、先ほどもありましたが、数社で「さかなのなみだ」という話を取り上げられています。こちらはテレビに出演されていて、今は大学の客員教授もされているさかなクンという方が書いておられます。ご自身の中学生時代の体験と魚の世界でもいじめがあるということを重ね合わせた話ですが、短いお話なので読みやすいと思いますし、特に日本文教出版の「道徳ノート」を利用することで、それを生徒たちが大人になって見返すことがあったときに、どう感じるのか、どう成長できたのかを考えるための貴重なツールになり得るのではないかなと思ひまして、本当に秀逸だと思ひました。

○見浪教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。

○原委員

「学び方の工夫」について、先ほどから話に出てきていますが、日本文教出版は別冊で「道徳ノート」があり、学習の記録をまとめやすくなっています。それぞれのページに、その単元に出てくる挿絵や写真が載せられているのもわかりやすいと思います。

あかつき教育図書、日本文教出版においては、各学年の最初の題材には、子どもたちにとっても良く知っているスポーツ選手や芸能人、漫画家などのメッセージや出来事を載せており、夢に向かって生きること、困難を乗り越えて夢をつかむなど、生きる原動力になる題材を持っているのが良いと思いました。また内容もわかりやすくなっていると思います。

○見浪教育長

ありがとうございました。「学び方の工夫」に関するご意見をいただきました。

「学び方の工夫」に関して、多数の委員から、日本文教出版の別冊「道徳ノート」は、学習の振り返りや課題・目標を見つける上で有用であるとの意見が出されました。また、日本文教出版、あかつき教育図書では、著名人のメッセージを掲載しており、生徒の夢に向かって生きることなど、生きる原動力となる題材であるとの意見がありました。

私も「学び方の工夫」については、各委員からの意見にもありましたが、日本文教出版の別冊「道徳ノート」はワークシートで書き込めることから、生徒が考えをまとめ、深める上で有用なものであると思います。

また、道徳という教科はとても重要な教科ではありますが、生徒にとってはとっつきにくい教科でもあります。生徒が興味をもって学習に入る動機づけをするという点では、委員からの意見にもありましたが、著名人からのメッセージや生徒の関心を引く題材を用いることも重要です。日本文教出版では、「キャプテン翼」や「ハイキュー!!」などの人気漫画を題材に、また、あかつき教育図書では「羽生結弦」さんを題材としています。

また、各社それぞれに学びを深める工夫をしており、東京書籍では「プラス」、教育出版では「ひろば」、光村図書では「チャレンジ」、日本文教出版では「視野を広げて」「学びを深めよう」などで、対話や資料などで学習内容をさらに深める構成となっています。

それでは意見も出尽くしましたので、採決に入ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 0 人、教育出版 0 人、光村図書 0 人、日本文教出版 5 人、
学研 0 人、あかつき教育図書 0 人、日本教科書 0 人

○見浪教育長

日本文教出版に 5 名挙手されていますので採決の結果、道徳は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

続きまして、「令和7年度使用小学校教科用図書」の採択を行います。

令和6年3月29日付の文科省通知「令和7年度使用教科書の採択事務処理について（通知）」に、小学校用教科書の採択については、「令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。」と示されています。現在採択している教科書と異なる教科書を採択する場合として、同通知にて、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法第14条及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条の規定に基づき、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行規則第6条各号に掲げる場合は、異なる教科書を採択することができること。」と示されておりますが、今回は該当がないということで、小学校教科用図書に関しましては、継続して現在使用している教科書を採択することで、ご異議ありませんでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○見浪教育長

審議の結果、小学校教科用図書については、継続して今年度と同じ教科書を採択することに決定します。

長時間にわたるご審議ありがとうございました。令和7年度使用教科用図書の採択につきましては、市教育委員会事務局、府教育委員会、各学校等の積極的な協力のもと、また市民からも幅広い意見が届けられ、本日、採択の最終日を迎えることができました。学習指導要領の趣旨に則るとともに、本市の重点教育課題の一つでもあります「個別最適な学びと協働的な学びの推進」を念頭に置いて、教科書の採択を行い、本日無事終えることができました。来年度から本日採択した教科書を用いて、本市の子どもたちがしっかり学習に励み、「生きる力」を育んでいくことを期待いたします。

以上で、本日予定しておりました案件は終了いたしました。全体を通じて何かご発言がありますか。

以上を持ちまして、7月の臨時教育委員会議を終了します。

本日はありがとうございました。

会議事項が終了したので、閉会を宣する。

午後3時42分